

西武学園文理中学校

<学習の指針>

令和 5 年度入学生
(中学 31 期生)

PHILOSOPHY OF EDUCATION 建学の精神

The cultivation of scholarship and skills.
学識と技術の錬磨

The development of a spirit of appreciation.
報恩の精神

Perseverance and a quest for excellence.
不撓不屈の精神

EDUCATIONAL POLICY 教育方針

Thou shalt do everything wi'heart;
Thou shalt be a man o'iron will.
Thou! Dost stick to th'ultimate end!

「すべてに誠をつくし最後までやり抜く強い意志を養う」

SCHOOL MOTTO 校訓

Sincerity	誠実
Reliance	信頼
Service	奉仕

BUNRI'S



INDEX

各教科 学習の指針

P. 3 ~ P. 71

➤ 国語		P. 3
➤ 社会		P. 9
➤ 数学		P. 15
➤ 理科		P. 31
➤ 音楽		P. 41
➤ 美術		P. 47
➤ 保健体育		P. 53
➤ 技術・家庭		P. 57
➤ 英語		P. 66



教科 国語		科目 国語	4 単位	対象学年 中学 1 年
【年間学習目標】				
＊言語活動に役立つ音声、文法、表記、語彙などに対して、意識的にアプローチする。				
＊作品に表れた思想や感情を的確に読み取り、ものの見方、感じ方、考え方の多様性を知る。				
【評価の観点】				
定期考査、S 限テスト、編集手帳や課題プリントなどの提出物、書写の作品、授業への参加姿勢を総合的に評価する。				
【使用教材】				
教科書 : 国語 1 (光村図書)				
副教材 : 新・基礎の学習 1 年 (新学社)、昇級式漢字トレーニング、 夏の特訓ゼミ国語 1 年 冬の特訓ゼミ国語 1 年				
期	考査	単元名	学習内容・自己評価	備 考
一 学 期	中 間 考 査	野原はうたう 声を届ける 【読む・詩】	☐ 作者の生き物になり、情景や心情を探る。 ☐ 朗読を重点的に練習し、成果を確認し合う。	年間を通じて毛筆の授業を行う。
		シンシュン 【読む・物語】	☐ 場面展開に沿い二人の関係の変化を捉える。 ☐ 場面を中心に物語の構成・主題を読み取る。 ☐ 自分が変わるきっかけとなった出来事や出会いを発表し合う。	S限開始(4 月下旬)
		ダイコンは大きな根？ 【読む・説明】	☐ 段落の要点をまとめる。 ☐ 題名の付け方や説明の順序など、文章の書き方についての筆者の工夫を考える	
		文法の扉 1 【言葉・文法】 文法1 言葉の単位 漢字に親しもう1	☐ 文章・段落・文・文節・単語について学習する	
	期 末 考 査	ちょっと立ち止まって 【読む・説明】	☐ 文章全体における各段落の働きを考える ☐ 生活の中で見過ごしやすいもの・視点を変えると見方の変わるものを挙げ、話し合う。	硬筆(校内展示) 漢字検定(6 月中旬)
		大人になれなかった弟たちに…【読む・物語】	☐ 戦争について、その知識と現実を話し合う。 ☐ 母や「僕」の心情を丁寧に読み取り、題名に込められた作者の思いをとらえ、話し合う。	
		文法の扉2 【言葉・文法】 文法②文の組み立て 漢字に親しもう2	☐ 主述の関係、修飾・被修飾の関係を中心に、文の組み立てについて学習する。	
夏季休業		・情報を整理して書こう ・夏の特訓ゼミ国語 1 年 ・漢字トレーニング(4 回分)→課題テスト(9 月)		補講実施(7 月)

期	考查	単元名	学習内容・自己評価	備 考
二 学 期	中 間 考 査	星の花が降るころに 【読む・物語】	□場面ごとの情景描写に着目し、そこに描かれている登場人物の気持ちを考える。 □様子や動きを何かにたとえた表現を探し、その情景や気持ちを考える。	全国書画展覧会出品
		「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ 【読む・記録】	□記録の文章の構成を理解し、図表の役割に着目して、事実と筆者の考えを読み分ける。	
		文法の扉3【言葉・文法】 文法③単語の分類 漢字に親しもう3	□単語を自立語／付属語に分ける。 □それぞれの品詞の特徴を理解し、文章中の単語を品詞に分ける。	
	期 末 考 査	いろは歌 【古文・音読】	□仮名遣いに注意して音読し、文語文の言葉の響きや調子に読み慣れる。	東洋大学現代学生百人一首出品(10月中旬)
		蓬萊の玉の枝(竹取物語) 【古文・読む】	□古典の文章と現代の文章の違いをとらえる。 □場面や情景、人物関係や心情を読み味わう。 □物語に登場する人々の姿と、現代の自分たちの生き方を比べ、考えたことを話し合う。	漢字検定(11月上旬) (4級未取得者必須)
		不便の価値を見つめ直す 【読む・説明】	□文章を読み、ものの見方や考え方を広げる □原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解する。	
		言葉1 指示する語句と接続する語句【言葉・文法】 漢字に親しもう4	□指示する語句と接続する語句の働きや使い分けについて理解する。	
	冬季休業		・読書を楽しむ(「本の中の中学生」) ・漢字練習(4級対策。未取得者のみ) ・冬の特訓ゼミ国語1年	
	三 学 期	今に生きる言葉(矛盾) 【漢文・読む】	□原文を繰り返し声に出して読み、漢文独特の言い回しに慣れる。 □口語訳を参考に、「矛盾」の由来を理解する □故事成語について、意味や用法・用例を調べ、発表し合う。	伊藤園お〜いお茶新俳句大賞出品(1月末)
		少年の日の思い出 【読む・物語】	□盗みを犯すまでの経緯や情景、」収集した調をつぶす等の「僕」の行動と心情を捉える。 □大人になった「僕」がどんな思いを込めてこの回想を語っているのかを考える。	漢字検定(2月上旬) (4級未取得者必須)
		文法1年の復習 【言葉・文法】 漢字に親しもう5	□文法を総復習するとともに、用言の活用の導入を行なう。	

教科 国語		科目 国語	4 単位	対象学年 中学2年
【年間学習目標】				
＊ 論理的な読み方(文章の構成や論の展開の仕方)を理解し、自らの考えを広げることで、自分なりの意見を適切に表現し伝える力も高める。				
＊ 古典に親しみ、古い時代の日本人的な考え方になじむことで、国語に対する認識を深め、国語を尊重する態度を育てる。				
＊ 作品の表現や展開から登場人物の言動の意味や人物像を理解することで、思考力や想像力を養いながら言語感覚を豊かにする。				
【評価の観点】				
定期考査、S 限テスト、編集手帳や課題プリントなどの提出物、書写の作品、授業態度を総合的に評価する。				
【使用教材】				
教科書 : 国語2 (光村図書)				
副教材 : 新基礎の学習2年 (新学社)、昇級式漢字トレーニング、編集手帳、夏の特訓ゼミ国語2年 冬の特訓ゼミ国語2年				
期	考査	単元名	学習内容・自己評価	備 考
一 学 期	中 間 考 査	見えないだけ 【読む】	□言葉の用い方や表現の特徴に注意し、自分なりの感想を持ちながら読み、詩の特徴を生かして朗読する。	年間を通じて程度毛筆の授業を行う。 S 限開始 (4月下旬)
		アイスプラネット 【読む】	□作品に表れるものの考え方について自分の考えをもつ。 □登場人物の言動や心情を表す表現に注意して作品を読む。	
		クマゼミ増加の原因を探る 【読む】	□文章の構成と論理の展開の仕方を理解する。文章と図表相互の関係と役割を考える。 □仮説の立て方や、検証の大切さと大変さを理解し、説得力ある文章を作るために必要なことを整理する。	
		言葉1 類義語・対義語・多義語 漢字1 熟語の構成 漢字に親しもう1	□言葉について調べ、言葉どうしの関係を考える □漢字の意味や組み立てを考えて、日常の生活に生かす	
		文法 1年生の復習【言葉】	□1年生の内容を復習する。	
	期 末 考 査	枕草子(第一章) 【読む】	□日本の四季を描いた情景描写の巧みさを読み取り、作者の四季の捉え方や感じ方について自分の考えを持つ □伝えたことを明確にし、自分の季節感が効果的に伝わるように描写や構成を工夫して書く	漢字検定 (6月中旬)
		短歌に親しむ 短歌を味わう 【読む】	□短歌の形式や表現を理解し、目にした情景、心に残る出来事を表現する仕方の一つとして生かす方法を考える。	
		言葉の力 【読む】	□言葉に対する筆者の考え方をとらえ、自分の考えを広げる □美しい言葉と正しい言葉に対する自分の考えをもつ	
		文法1 自立語【言葉・文法】 漢字3 送り仮名	□用言の活用や動詞の活用の種類について確認する。	
夏季休業		・ 夏の特訓ゼミ国語 2年 ・ 編集手帳		

二 学 期	中 間 考 査	盆土産 【読む】	☐ 描写の効果、登場人物の言動の意味などに注意し、人柄や心情を読み取る。	全国書画展覧会出品
		字のない葉書 【読む】	☐ 人物の言動や様子を描いた表現、心情を表す語句に着目して読み、その人柄や心情を捉える。	
		漢字2 同じ訓・同じ音をもつ 漢字【漢字】 漢字に親しもう2・3	☐ 漢字の意味を考えて、同訓・同音の漢字の使い分けが出来るようにする。	
		文法への扉2 文法2 用言の活用【言葉・文法】	☐ 用言の活用について理解する。	
		徒然草（仁和寺にある法師） 【読み】	☐ 昔の人のものの見方や考え方にふれ、自分の意見をもつ	
	期 末 考 査	平家物語（祇園精舎・扇の的） 【読む】	☐ 冒頭部分を音読する。また、登場人物の心情を想像しながら作品を読み、古典に描かれたものの見方や考え方について自分の考えをもつ。	東洋大学現代学生百人一首 出品 漢字検定 （10月下旬～11月上旬）
		漢詩の風景【読む】	☐ 漢詩特有の調子を生かして読み味わい、表現や文体の特徴に気づく。	
		モアイは語る ——地球の未来 【読む】【書く】	☐ 構成や展開の工夫を知り、筆者のものの見方や考え方について、知識や体験と関連づけ自分の考えを持つ。 ☐ 社会問題について、根拠を示しながら意見を述べる。	
		言葉2 敬語 漢字に親しもう4・5	☐ 日本語の敬語表現の特徴について理解を深め、その使い方を身につけ、相手や目的に応じて言葉を工夫する。	
冬 季 休 業		・文法の復習、予習（スタディサプリ） ・編集手帳 ・冬の特訓ゼミ国語2年		
三 学 期	期 末 考 査	君は「最後の晩餐」を知っているか 【読む】	☐ 初めて知ったことや興味をもったところなどを、知識や体験と関連づけながら確認し合い、文章中のものの見方や考え方について自分の考えをもつ。	漢字検定 （1月下旬～2月上旬） 伊藤園 お〜いお茶新俳句大賞出品
		走れメロス／表現の仕方を工夫して書こう 【読む】【書く】	☐ 語句の使い方や、表現、文体の特徴に注意して読み、人物像の変化をとらえる。 ☐ 場面の様子や気持ちの変化が効果的に伝わるように、ある視点を定め、表現を工夫して書く。	
		言葉3 話し言葉と書き言葉 漢字に親しもう6	☐ 話し言葉と書き言葉の特徴について理解する ☐	
		文法絵の扉3 文法3 付属語【言葉】	☐ 自立語8品詞の復習 ☐ 助詞・助動詞の意味やはたらきを理解する。	

教科	国語	科目	国語	4 単位	対象学年	中学3年
【年間学習目標】						
＊【話・聞】社会と自己の関わりの中から課題を決め、話し合いの中で互いの考えを伝え合う力を身につける。						
＊【書】自らの考えを、構成や表現・目的に応じた豊かな言葉で表現する力を身につける。						
＊【読】文章を正確に理解し構成や表現の仕方を評価しながら読む力を身につける。						
＊【伝統】歴史的な背景に留意しながら古典の世界に親しむとともに、語彙・文法事項について学ぶ。						
【評価の観点】						
定期考査、S 限テスト、編集手帳や課題プリントなどの提出物、書写の作品、授業への参加姿勢を総合的に評価する。						
【使用教材】						
教科書：国語 3（光村図書）						
副教材：新基礎の学習(新学社) 昇級式漢字トレーニング 編集手帳書き写しノート						
夏の特訓ゼミ国語3年・冬の特訓ゼミ国語3年						
期	考査	単元名	学習内容・自己評価			備考
一学期	中間考査	世界はうつくしいと【読／詩】	□作者の思いをとらえながら工夫して音読する			年間を通じて毛筆の授業を行なう。 S 限開始（4 月下旬）
		握手 【読／小説】	□登場人物の置かれた状況や立場を理解しながら小説を読み、人物像をとらえる。 □登場人物の生き方や考え方から、人間や社会に対する自分の意見をもつ。			
		学んで時にこれを習ふ 「論語」 【読／伝統／古典】	□現代に通じる人間の生き方に対する鋭い考察に触れ、作品世界に親しむ。 □基本的な漢文の句法を学ぶ。			
		作られた「物語」を超えて 【読／論説】	□筆者の考え方を表す語句や論理の展開に着眼して主張を捉える □筆者の考えを踏まえ、人間、社会、自然などについて自分の考えを持つ。			
		漢字1／熟語の読み方 漢字に親しもう1	□漢字の音と訓 その組み合わせによる読み方を理解する。			
	期末考査	言葉1 和語・漢語・外来語 【言葉】 漢字1 熟語の読み方【漢字】	□和語・漢語・外来語について知る。 □音と訓について知る。 □熟語の読み方に習熟する。			硬筆（校内展示） 漢字検定（6 月中旬）
		高瀬舟 【読／小説】	□批評的な立場から読み、登場人物やテーマについて自分の考えを持つ。			
		俳句の可能性／俳句を味わう 【読／俳句】	□俳句のきまりや特徴、表現の仕方に注目しながら作者の思いをとらえる。			
		文法の扉1 文法1 文法を生かす【伝統／文法】	□文法の考え方や知識を、表現や読みの工夫に生かす。			
		文章の種類を選んで書こう 魅力的な紙面を編集 【書】	□ふさわしい文章の形態や素材選びを行い、紙面構成を工夫するとともに、推敲し表現や体裁を整える。			
補講		読書を楽しむ 「私の一冊」 【読書活動】	□これまでの読書生活をふりかえり、本との関わり方について考え、今後の読書について見通しを持つ。			
		卒業論文にむけて 【書】 説得力のある構成を考えよう	□全体構成を考え、内容のまとめ方を工夫する。			
		情報を読み取って文章を書こう 【書】	□グラフ等を読み取って小論文を書く			

	考查	単元名	学習内容・自己評価	備考
二 学 期	中間 考 査	古今和歌集 仮名序 【読／古文】	☐ 仮名序を読み、和歌に対する昔の人々の思いを捉え、人間や自然に対する考え方を理解する。	全国書画展覧会 出品
		「三大和歌集」 【読・伝統／古文】	☐ わが国の代表的な三つの和歌集の作品を、効果的な表現や語句の使い方に注意して読み味わう。 ☐ 和歌に現れた昔の人の心情や情景を読み取る。	
		人工知能と未来 人間と人工知能と創造性 【読／論説】	☐ 文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考える ☐ 筆者の考えに納得できたこと・できなかったことを手がかりに自分の考えをまとめる	
		報道文を比較して読もう 【読／論説】	☐ 論説を読み比べ主題や論理、表現を評価する。 ☐ 一つの話題に関する複数の文章を読み、ものの見方や考え方を広げる。	
		漢字に親しもう 3・4		
	期末 考 査	夏草「おくのほそ道」 【読・伝統／古文】	☐ 古典の文章を、表現や文体に着目して読み味わう。 ☐ 歴史的背景などを考えながら、作者のものの見方や感じ方を読み取る。	東洋大学現代学生 百人一首出品 漢字検定 (11月上旬)
		初恋【読／詩】	☐ 言葉の響きやリズムを味わう ☐ 語句の意味や表現に込められた作者の思いを読み取り、感じたことを話し合う。	
		誰かの代わりに 【読／論説】	☐ 筆者のものの見方や考え方を捉え、これからの自分の生き方について考える。	
		言葉2 慣用句・ことわざ・ 故事成語【言葉】	☐ 慣用句・ことわざ・故事成語について学ぶ。	
三 学 期	期末 考 査	故郷【読／小説】	☐ 時代や社会の変化の中で、人と人との関わりについて自分の考えを持つ ☐ 設定や登場人物の比較から内容を読み深める	伊藤園お〜い お茶新俳句大 賞出品
		説得力のある文章を書こう 【書】	☐ 社会生活から話題を決め、観点を立てて分析した上で構成や表現を工夫し、説得力のある文章を書く。	
		エルサルバドルの少女 ヘス ース 【読／記録】	☐ 登場する人物の生き方について自分の考えを持つ。 ☐ 困難な状況でたくましく生きる人々や世界で活動する人々について考えさせる。	
		三年間の歩みを振り返ろう 【話・聞・書】	☐ 三年間の学びを振り返りながら自分の考えを深め、構成を工夫してまとめる。 ☐ 発表内容や書いた作品を評価し合い、ものの見方や考え方を深める。	
		文法への扉2 文法2 文法のまとめ【伝統】 漢字に親しもう 5・6	☐ 文法の総復習を行い、高校での学習に繋げる。	

教科	社会	科目	地理	3.4 単位	対象学年	中学 1 年
【年間学習目標】 1 年間の授業を通して、地理の全体像をつかむことを目標とする。 地図を積極的に活用する。また、各地域の産業やくらしの発展を理論的に説明し、単なる暗記もので終わらせないように努力する。 各単元において、自分の言葉でまとめ、発表する力を養う。						
【評価の観点】 定期考査，プリント、ノート、長期休業中の課題などの提出物の内容，授業の取組み状況を総合的に評価する。						
【使用教材】 教科書：新しい社会 地理（東京書籍） 中学校社会科地図（帝国書院）						
期	考査	単元名	学習内容・自己評価			備 考
一 学 期	中 間 考 査	世界の姿	地球の大きさや水陸比などを理解する。 世界の国々と地域区分を理解する。			世界の国について調べ、まとめる。
		日本の姿	地球における日本の位置を知り、日本の領域を知る 日本の地域区分を理解する			地図作業
	期 末 考 査	世界各地の人々の生活と環境 地域調査の手法	世界の気候の分布を知り、気候に応じた人々の生活を理解する。 これまでに学習した内容をふまえて、地理的な観点から身近な地域についての理解を深める。また、身近な地域に関する諸統計を作成し発表する。			地図作業 地形図の読図 身近な環境の特徴を地図にまとめる。

期	考査	単元名	学習内容・自己評価	備 考
二 学 期	中 間 考 査	世界の諸地域 アジア州 ヨーロッパ州、 北アメリカ州 (アフリカ州) (南アメリカ州) (オセアニア州)	各州の自然環境を地形・気候の面からとらえ、 それらが産業に大きな影響を与えていること を理解する。主な農業・工業区分を理解する。 これまでに学習した自然分野から理論的に確 立した現在の産業を学習する。 日本と経済的・政治的結びつきを強めている 現状について理解する。	地図作業
	期 末 考 査	日本の地域的特色と地 域区分 日本の地形・気候・ 自然災害・人口・ 資源・産業・ 交通・通信など	日本がどのような地形・気候であるかを世界 レベルから理解する 自然災害について理解を深める。 日本の人口・資源・産業・などについて、現状 を理解しこれからの発展について学習する。 島国日本の国内外の交通・通信を確認する。	地図作業 身近な地域の自然災 害について調べる。
三 学 期	期 末 考 査	日本の諸地域 北海道地方 東北地方 関東地方 中部地方 近畿地方 中国四国地方 九州地方	これまでに学習した内容を踏まえて、各地域 の自然や産業・文化について調べ、発表する。	これまでの学習の集 大成として、日本の 地域についてグルー プで調べ、発表する。
【学習上の留意点】 単語・用語の説明で終始せず、地域の人々の暮らしがどのように成立しているのかを、自然的・社会的要因 から理解できるように工夫する。また、学習単元終了ごとに確認のための演習を行なう。				

教科 社会		科目 歴史	4 単位	対象学年 中学2年
【年間学習目標】 ＊教科書の内容を中心に、基本的な知識を身に付ける。 ＊歴史に対しての興味・関心を持ち、何事にも意欲的に取り組む姿勢をはぐくむ。				
【評価の観点】 定期考査、ノート提出、長期休業中の課題、授業に取り組む姿勢などを総合的に評価する。				
【使用教材】 教科書：東京書籍『新しい社会 歴史』				
期	考査	単元名	学習内容・自己評価	備 考
一学期	中間考査	第1章 歴史の流れをとらえよう ・「歴史の流れ」からまとめてみよう 第2章 古代までの日本 ① 世界の古代文明と宗教のおこり ② 日本列島の誕生と大陸との交流 ③ 古代国家の歩みと東アジア世界	☐ 歴史上の人物や出来事などについて調べたり考えたりする活動を通して、時代区分や時代の移り変わりに気付かせる ☐ 人類の出現と進化を理解する ☐ 古代文明が発生した地域とその特色を理解する ☐ 縄文時代と弥生時代の違いを理解する ☐ 大和政権が国内を統一した過程を理解する ☐ 聖徳太子の政治について理解させる	歴史学習のはじめに時代区分・世紀・西暦などを予備知識として理解する。
	期末考査		☐ 大化の改新から律令国家の確立に至るまでの過程を理解する ☐ 奈良時代の政治と文化を理解する ☐ 平安遷都や政治のしくみを理解する	既習の知識と創造的思考を生かした夏季課題あり
二学期	中間考査	第3章 中世の日本 ① 武士の台頭と鎌倉幕府 ② 東アジア世界との関わりと社会の変動	☐ 武士の登場と武士が政権を握った課程を理解する ☐ 鎌倉幕府の成立と政治のしくみを理解する ☐ モンゴルの襲来(元寇)後の鎌倉幕府の影響を理解する	校外学習(鎌倉)で学んだことを想起する。

期	考查	単元名	学習内容・自己評価	備 考
二 学 期	期 末 考 査	第4章 近世の日本 ① ヨーロッパ人との 出会いと全国統一	☐ 南北朝動乱と室町幕府成立に至る課程を理解する ☐ 戦国大名の台頭、室町文化を理解する ☐ ルネサンス・宗教改革・大航海時代などを理解し、日本に鉄砲とキリスト教が伝来した背景を理解する。 ☐ 南蛮人が伝えた鉄砲とキリスト教が、日本の社会に広まった様子を捉える	既習の知識と創造的思考を生かした冬季課題あり
三 学 期	期 末 考 査	② 江戸幕府の成立と鎖国 ③ 産業の発達と幕府政治の動き	☐ 織田信長と豊臣秀吉の統一事業の過程、信長の経済政策、秀吉の宗教政策の影響について当時の法令から理解する ☐ 桃山文化の特色を建築・絵画・芸能などから理解する ☐ 260 年余りも続く平和な時代がどのようにして生まれたかについて関心を持つ ☐ 江戸時代の身分制度と武士、百姓、町人それぞれの職分や生活の様子を理解する ☐ 江戸幕府の対外政策の変化について年表などから調べ、貿易の振興から鎖国へと方針を変えた理由を考える ☐ 農業の進歩や諸産業の発達の様子を調べ、そのあらましを理解する ☐ 交通の発達や三都をはじめとする都市が発達したことを理解する	奈良京都研修旅行の事前事後指導で、教科内で学習したことをつなげる
【学習上の留意点】 ＊単なる年号や歴史用語の丸暗記に陥らないよう、歴史の全体像（流れ）を把握する。 ＊正しい漢字を用いて、歴史用語を記述できるようする。 ＊生涯を通じて歴史を楽しむ姿勢を身につける。				

教科	社会	科目	歴史・公民	4 単位	対象学年	中学 3 年
【年間学習目標】						
☐ 教科書の内容を中心に、基本的な知識を身に付ける（1 学期中間まで歴史、それ以降は公民） ☐ 歴史や私たちの暮らし対しての興味・関心を持ち、何事にも意欲的に取り組む姿勢をはぐくむ。						
【評価の観点】						
定期考査、ノート提出、長期休業中の課題、授業に取り組む姿勢などを総合的に評価する。						
【使用教材】						
教科書：東京書籍『新しい社会 歴史』						
教育出版『中学社会 公民 とともに生きる』						
期	考査	単元名	学習内容・自己評価			備 考
一学期	中間考査	3 産業の発達と幕府政治の動き 第 5 章 開国と近代日本の歩み 1 欧米における近代化の進展	☐ 三大改革のそれぞれの特徴とその問題を比較・考察する ☐ 外国船の接近とそれに対する幕府の対応について資料から理解する ☐ 市民革命と産業革命を経て、欧米諸国が近代国家を樹立していった過程を理解する。			歴史学習から公民学習につなげる。
	期末考査	第 2 章 個人を尊重する日本国憲法 1 日本国憲法の成り立ちと国民主権 2 憲法が保障する基本的人権	☐ 日本国憲法の基本原理としていることについての理解を深める。 ☐ 世界の人権保障の歴史をふまえ、日本の人権保障について理解を深める。 ☐ 天皇の地位と国事行為について理解する。 ☐ 憲法第 1 4 条の平等権をもとに、偏見や思い込みに基づくさまざまな差別について理解を深める。 ☐ 合理的配慮という考え方に基づいて、さまざまな人が共生できる社会を目指していることに気付かせる。			公民学習に移行 教科書 3 7 頁から
二学期	中間考査	2 憲法が保障する基本的人権 3 私たちの平和主義 第 3 章 私たちの暮らしと民主政治 1 民主政治と日本の政治	☐ 人々が国家から不当な介入をされてきた歴史をふまえ、自由権の保障の意義について理解する。 ☐ 人間らしい生活を送る上で必要不可欠な社会権について、理解を深める。 ☐ 新しい人権が、憲法制定から時間が経ち必要になってきたことを理解する。 ☐ 公共の福祉という考え方を知り、実生活と人権保障のつながりを考え、理解する。 ☐ 平和主義の考え方の背景とその意義を理解し、日本の防衛と安全の問題について考える。 ☐ 民主主義の意義を理解し、民主主義を実現するための制度や取り組みを理解する。 ☐ 選挙のしくみや選挙権の引き下げの経緯を知り、自ら政治に参加する重要性を理解する。			教科書 5 4 頁から

期	考查	単元名	学習内容・自己評価	備考
二 学 期	期 末 考 査	1 民主政治と日本の政治 2 三権分立のしくみと私たちの政治参加	☐ 政党が政治に果たす意義について理解を深める。 ☐ マスメディアの役割と SNS の登場による社会の変化について考え、自分の意見を持つ。 ☐ 国権の最高機関である国会のしくみを、二院制や衆議院の優越という具体例から学び、理解する。 ☐ 議院内閣制という、国会と内閣が協力して政治を行うしくみを大統領制などと比較し、理解する。 ☐ 国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解する。 ☐ 司法制度改革の一環として、国民が司法に参加しやすくなる裁判員制度が導入されていることを理解する。 ☐ 権力分立のしくみや意義を、三権について学んできたことをふまえ、理解を深める。	教科書 90 頁から
三 学 期	期 末 考 査	第4章 私たちの暮らしと経済 1 消費生活と経済活動 2 企業の生産のしくみと労働 3 市場のしくみとはたらき 4 金融のしくみと財政の役割	☐ 経済を動かす三つの主体をとらえながら、自分たちの暮らしと経済活動とのつながりへの関心を高める。 ☐ 貨幣の登場の意義を考え、現在はクレジットカードや電子マネーが普及していることを理解する。 ☐ 消費者の権利を守るための制度や法整備について理解を深める。 ☐ 企業の種類や株式会社について理解を深める。 ☐ 企業の社会的責任について理解を深める。 ☐ 労働者の権利保障や、働く上でのさまざまな課題について理解を深める。 ☐ 需要と供給を通じて、価格が人々の生活に密接に関わっていることを理解する。 ☐ 不当な競争を防止するための法律や組織について理解を深める。 ☐ 銀行の果たす役割を、市中銀行と中央銀行それぞれで理解する。 ☐ 直接金融と間接金融について、理解する。 ☐ 財政の果たす役割について理解を深める。	教科書 12 7 頁から
留意点 ☐ グループワークやプレゼンテーションなど通じて、主体的に考え行動できる力を養う。 ☐ 成人や有権者となる 18 歳に向けての準備を進める。 ☐ 模擬裁判や金融教材などの体験を通じて、社会のしくみについて理解を深める。				

教科 数学 科目 数学A		3 単位	対象学年	中学1年
【年間学習目標】 ＊教科書の内容を正確に理解する。 ＊理解できた事柄を正しく活用して問題が解けるように、問題演習を反復し、理解の定着を図る。 ＊授業の内容を活かし、副教材などを用いて応用力を身につける。				
【評価の観点】 定期考査、S時限小テスト、問題集などの提出物の内容、授業の取組み状況を総合的に評価する。				
【使用教材】 教科書：これからの数学1，2（数研出版） 副教材：中学数学スタンダード問題集 1，2（数研出版） マイクリア数学 中学1，2年（新育開発出版）				
期	考査	単元名	学習内容・自己評価	備 考
一 学 期	中間 考査	これからの数学1 1章 正の数と負の数 1 正の数と負の数 2 加法と減法 3 乗法と除法 4 いろいろな計算	☐ 正の数、負の数の意味を理解でき、＋、－の符号を用いられる ☐ 反対の性質を持つ量や変化を正負の数を用いて表せる ☐ 自然数や絶対値などの数学用語を正しく理解できる ☐ 正負の数を数直線上に表せる ☐ 数の大小関係を不等号を用いて表せる ☐ 正負の数の加法を計算できる ☐ 減法を加法に直して計算できる ☐ 加減混合計算ができる ☐ 正負の数の乗法の計算ができる ☐ 累乗の意味を理解し、累乗の計算ができる ☐ 正負の数の除法の計算ができる ☐ 逆数の意味を理解し、逆数を使って除法を乗法に直して計算できる ☐ 乗除混合計算、四則混合計算ができる ☐ 分配法則を利用して工夫して計算ができる ☐ 正負の数の計算を利用して、身近な問題を解決できる ☐ 自然数を素数の積であらわすことができる	
	期末 考査	これからの数学1 2章 文字と式 1 文字と式 2 文字式の計算 3 文字式の利用	☐ 文字式の表し方の約束を活用し、式を簡潔にできる ☐ 式の値を求められる。 ☐ 項、係数、1次式などの数学用語を正しく理解できる ☐ 同類項をまとめられる ☐ 1次式の加減や1次式と数の乗除の計算ができる ☐ かっこのある1次式の計算ができる ☐ 分数形の1次式の計算ができる ☐ 文字式の計算と数の計算を関連づけながら考えられる ☐ 数量の関係や法則を、文字を用いて説明できる ☐ 不等式を用い、数量の大小関係を表現できる	

期	考查	単元名	学習内容・自己評価	備 考
二 学 期	中間 考 査	これからの数学 1 3 章 1 次方程式 1 1 次方程式 2 1 次方程式の利用	☐ 等式，左辺，右辺の意味を理解し、数量の間の関係を等式で表せる ☐ 方程式の解を文字に代入して、いろいろな値を求められる ☐ 等式の性質を使って簡単な方程式が解ける ☐ 移項の考えを使って方程式が解ける ☐ 基本的な方程式を解くときの手順を理解している ☐ かっこをふくむ形，小数係数，分数係数，比の形に表された方程式が解ける ☐ 解と方程式の関係を理解している ☐ 様々なタイプの文章題を方程式を利用して解くことができる	
	期 末 考 査	これからの数学 2 1 章 式の計算 1 式の計算 2 文字式の利用	☐ 単項式、多項式、次数について理解できる ☐ 同類項をまとめる計算ができる ☐ 多項式同士の加法と減法を計算できる ☐ 多項式と数との乗法と除法を計算できる ☐ 分配法則を利用した多項式の計算ができる ☐ 分数形の多項式の計算ができる ☐ 指数法則を理解し、使うことができる ☐ 乗除混合計算ができ、式の値を求められる ☐ 文字式を利用して整数の性質を説明できる ☐ 式の計算を利用して図形の問題が解ける ☐ 目的に応じて等式を変形できる	
	考 査 後	【1 次不等式】	☐ 不等号の意味を理解し、数量の大小関係を式で表すことができる ☐ 不等式の性質を理解している ☐ 不等式における解の意味を理解している ☐ 1 次不等式を解くことができる	
三 学 期	期 末 考 査	これからの数学 2 2 章 連立方程式 1 連立方程式 2 連立方程式の利用	☐ 2 元 1 次方程式、連立方程式の意味とそれらの解の意味を理解する ☐ 2 元 1 次方程式の 1 つの文字に値を代入し、もう 1 つの文字の値を求める ☐ 連立方程式を加減法や代入法を用いて解ける ☐ かっこ，小数・分数， $A = B = C$ の形の連立方程式が解ける ☐ いろいろな問題場面に応じて、1 元 1 次方程式や連立方程式を的確に用いられる	
【学習上の留意点】 問題集は定期的に回収する。授業進度に合わせて各自が家庭で取り組むこと。 教科書の問題だけではなく、プリント等を利用して演習し、理解を深める。				

教科 数学		科目 数学B	2 単位	対象学年 中学1年
【年間学習目標】 ＊教科書の内容を正確に理解する。 ＊理解できた事柄を正しく活用して問題が解けるように、問題演習を反復し、理解の定着を図る。 ＊授業の内容を活かし、副教材などを用いて応用力を身につける。				
【評価の観点】 定期考査、S時限小テスト、問題集などの提出物の内容、授業の取組み状況を総合的に評価する。				
【使用教材】 教科書：これからの数学 1, 2 (数研出版) 副教材：中学数学スタンダード問題集 1, 2 (数研出版) マイクリア数学 中学1, 2年 (教育開発出版)				
十 期	考査	単元名	学習内容・自己評価	備 考
一 学 期	中間考査	これからの数学1 7章 データの活用	☐ 度数分布表、ヒストグラム、度数折れ線グラフ、相対度数について理解する ☐ 平均値、代表値、中央値、最頻値、範囲について理解する ☐ 近似値と誤差、有効数字について理解する ☐ 累積度数について理解する ☐ データにもとづく確率について理解する	
	期末考査	これからの数学1 5章 平面図形 1 平面図形 2 作図 3 円	☐ 直線、線分、半直線について学び、2直線の位置関係を理解する ☐ 角の表し方を学ぶ ☐ 垂直や平行の関係を記号を用いて表せる ☐ 線対称な図形、点対称な図形について学ぶ ☐ 平行移動、対称移動、回転移動について学ぶ ☐ コンパスと定規だけを使って図をかくことの意味を理解する ☐ 垂直二等分線、角の二等分線、垂線の作図方法を身につける ☐ 円の中心と弦に関する性質・円と接線に関する性質を理解し、その性質を利用して円に関する作図が出来る ☐ 対称な点の作図方法を学ぶ	
二 学 期	中間考査	これからの数学1 6章 空間図形 1 空間図形 2 立体の体積と表面積	☐ 空間における平面と直線について学ぶ ☐ 直線と平面の位置関係について理解する ☐ いろいろな立体の名称や性質について学ぶ ☐ 角柱、角錐、円柱、円錐の展開図について学ぶ ☐ 面や線を動かしてできる立体を理解する ☐ 投影図について学ぶ ☐ おうぎ形の弧の長さや面積の計算を学ぶ ☐ おうぎ形を含んだ図形の、長さや面積を求める ☐ 角柱、角錐、円柱、円錐の表面積、体積の求め方を学ぶ ☐ 球の表面積、体積の求め方を学ぶ ☐ 展開図を利用して、最短経路の求め方を学ぶ ☐ 立体を平面で切ったときの切り口を学ぶ	

期	考査	単元名	学習内容・自己評価	備 考
二 学 期	期 末 考 査	これからの数学 1 4 章 比例と反比例 1 比例 2 反比例 3 比例、反比例の利用	☐ 関数の意味を理解する ☐ 比例、反比例の意味、および、比例定数の意味を理解する ☐ 比例、反比例の式や比例定数を求められる ☐ 文字を変数として扱える ☐ 変数や変域の意味を理解する ☐ 座標の意味を理解する ☐ 変化や対応のようす、グラフの形など、比例や反比例の特徴を理解する ☐ 比例、反比例の特徴を、表、式、グラフを相互に関連づけて理解する ☐ 座標平面上の直線図形の面積を求められる ☐ 比例、反比例の関係を利用して、身のまわりの問題を考えられる	
三 学 期	期 末 考 査	これからの数学 2 4 章 図形の性質と合同 1 平行線と角 2 三角形の合同 3 証明	☐ 対頂角、同位角、錯角について学ぶ ☐ 平行線の性質について理解する ☐ 平行線になる条件を理解する ☐ 三角形の内角と外角の関係をつかむ ☐ 多角形や複雑な図形を、補助線を引くことで三角形に分割する方法を身につける ☐ 多角形の外角の和は 360° であることを理解する ☐ 合同な図形の性質について学ぶ ☐ 三角形の合同条件について学ぶ ☐ 仮定と結論について学ぶ ☐ 定義と定理について学ぶ ☐ 基本的な図形の性質を通して、証明の進め方を身につける ☐ 合同条件を用いて、三角形の合同を証明する手順を学ぶ	
【学習上の留意点】 問題集は定期的に回収する。授業進度に合わせて各自が家庭で取り組むこと。 教科書の問題だけではなく、プリント等を利用して演習し、理解を深める。				

教科 数学		科目 数学 A	3 単位	対象学年 中学 2 年
【年間学習目標】 ＊教科書の内容を正確に理解する。 ＊理解できた事柄を正しく活用して問題が解けるように、問題演習を反復し、理解の定着を図る。 ＊授業の内容を活かし、副教材などを用いて応用力を身につける。				
【評価の観点】 定期考査、S 時限小テスト、問題集などの提出物の内容、授業の取組み状況を総合的に評価する。				
【使用教材】 教科書：これからの数学 2, 3 (数研出版) 副教材：中学数学スタンダード問題集 2, 3 (数研出版) マイクリア数学 中学 2, 3 年 (教育開発出版)				
期	考査	単元名	学習内容・自己評価	備 考
一 学 期	中 間 考 査	これからの数学 2 3 章 1 次関数 1 節 1 次関数 2 節 1 次関数と方程式 3 節 1 次関数の利用	☐ 1 次関数 $y = ax + b$ の意味と性質を理解する ☐ 与えられた式が、1 次関数か否か見分けられる ☐ x の増加量, y の増加量, 変化の割合の関係を理解し、2 つから残る 1 つを求められる ☐ 与えられた式から、変化の割合、切片が求められる ☐ 1 次関数と比例のグラフの関係を理解する ☐ 与えられた 1 次関数の式を、グラフで表せる ☐ 傾き、切片の意味、性質を理解する ☐ グラフから、傾き、切片を求めることができ、1 次関数の式で表せる ☐ 変域つきの 1 次関数のグラフをかける ☐ 点の座標や傾き、2 直線が平行・垂直など、いろいろな条件が与えられたときの直線の式を求められる ☐ 2 元 1 次方程式のグラフを、 y について解いたり、座標軸との交点を求めることによって、かくことができる ☐ 連立 2 元 1 次方程式の解とグラフの関係を理解し、利用できる ☐ 与えられた条件を満たす 1 次関数が求められる	
	期 末 考 査	これからの数学 3 1 章 式の計算 1 多項式の計算 2 因数分解 3 式の計算の利用	☐ 単項式や多項式を含む乗法の計算ができる ☐ 多項式÷単項式の計算ができる ☐ 基本的な乗法公式を理解し、利用できる ☐ 因数分解の意味を理解する ☐ 共通因数をくくり出せる ☐ 基本的な因数分解の公式を理解し、利用できる ☐ 置き換えによる因数分解の方法を身につける ☐ 項の組合せを考えた因数分解の方法を身につける ☐ 式の値の計算に因数分解を利用できる ☐ 乗法公式や因数分解を利用した数の計算を身につける ☐ 文字式を用いて、数や図形の性質を証明できる	

期	考査	単元名	学習内容・自己評価	備 考
二 学 期	中間考査	これからの数学3 2章 平方根 1 平方根 2 根号を含む式の計算	☐ 有理数で表せない数（無理数）があることや、平方根を用いて考えることのよさに関心をもち、数量を、平方根を用いて表す ☐ 平方根の意味、根号の使い方を理解する ☐ 平方根の大小、平方根の積と商など、平方根の性質を理解する ☐ 分母を有理化する基本的な方法を身に付ける ☐ 根号をふくむ式の乗法、除法、加法、減法が計算できる ☐ 分配法則や乗法公式を利用、根号を含む式の計算ができる ☐ 分母が根号を含む数の和や差で表されている分数について、分母の有理化ができる ☐ 根号を含む数を代入して、式の値を求められる ☐ 平方根を整数部分と小数部分に分けられる ☐ 根号を使って表された数が、整数になるための条件など、平方根の性質を学ぶ	
	期末考査	これからの数学3 3章 2次方程式 1 2次方程式 2 2次方程式の利用	☐ $ax^2 = b$ の形の方程式を、平方根の考え方を使って解ける ☐ $(x+m)^2 = n$ の形の方程式を、平方根の考え方を使って解ける ☐ 平方完成を理解し、利用できる ☐ $x^2 + px + q = 0$ の形の方程式を、平方完成を利用して解ける ☐ 因数分解を利用して、2次方程式を解ける ☐ 2次方程式の解の公式を理解し、利用できる ☐ かつこのついた2次方程式を解ける ☐ 小数係数、分数係数の2次方程式を解ける ☐ 置き換えを利用した問題など、いろいろな2次方程式を解ける ☐ 解から、2次方程式を決定できる ☐ 2次方程式を利用して、文章題を解ける	
三 学 期	期末考査	これからの数学3 4章 関数 $y = ax^2$ 1 関数 $y = ax^2$ 2 関数の利用	☐ 2乗に比例する関数 $y = ax^2$ の意味と性質を理解する ☐ 1組の x 、 y の値から比例定数を求められる ☐ 関数 $y = ax^2$ のグラフの性質を理解する ☐ 比例定数の値によるグラフの特徴を理解する ☐ 放物線、軸、頂点などの用語を理解する ☐ x の変域から y の変域を求められる ☐ 2次関数における変化の割合の意味を理解し、求められる ☐ 具体的な事象について、関数 $y = ax^2$ を利用できる ☐ 動点と図形の面積の問題について、 y を x の式で表せる ☐ x の変域によって式が異なる関数のグラフをかける ☐ 連立方程式を用いて、放物線と直線の交点の座標を求められる	
【学習上の留意点】 問題集は定期的に回収する。授業進度に合わせて各自が家庭で取り組むこと。 教科書の問題だけではなく、プリント等を利用して演習し、理解を深める。				

教科 数学		科目 数学B	2 単位	対象学年 中学 2 年
【年間学習目標】 ＊教科書の内容を正確に理解する。 ＊理解できた事柄を正しく活用して問題が解けるように、問題演習を反復し、理解の定着を図る。 ＊授業の内容を活かし、副教材などを用いて応用力を身につける。				
【評価の観点】 定期考査、S 時限小テスト、問題集などの提出物の内容、授業の取組み状況を総合的に評価する。				
【使用教材】 教科書：これからの数学 2, 3 (数研出版) 副教材：中学数学スタンダード問題集 2, 3 (数研出版) マイクリア数学 中学 2, 3 年 (教育開発出版)				
期	考査	単元名	学習内容・自己評価	備 考
一学期	中間考査	これからの数学 2 5 章 三角形と四角形 1 三角形	☐ 二等辺三角形の性質について学ぶ ☐ 二等辺三角形の性質を利用して、証明を進める ☐ 二等辺三角形になる条件について学ぶ ☐ 正三角形の性質について学ぶ ☐ 直角三角形については、一般の三角形の合同条件に加えて、2 つの合同条件が使えることを学ぶ ☐ 直角三角形の合同条件を使って証明ができるようにする	
	期末考査	2 四角形	☐ 平行四辺形の性質について学ぶ ☐ 平行四辺形の性質を利用して、証明を進める ☐ 平行四辺形になる条件について学ぶ ☐ 平行四辺形の特別な場合として、長方形、ひし形、正方形の性質について学ぶ。特に対角線の条件に気をつける ☐ 高さが等しい 2 つの三角形や、底辺が等しい 2 つの三角形について面積の比を考える ☐ 平行線と面積の関係について理解する ☐ 多角形の面積を変えずに形を変える方法について学び、それを利用して多角形の面積を求められる	
		これからの数学 2 6 章 データの活用 1 データのちらばり 2 データの傾向と調査	☐ 四分位範囲が理解できる ☐ 箱ひげ図を用いて表現できる ☐ 場合の数をすべて数え上げる方法で求められる ☐ 表や樹形図を使って、場合の数、順列が求められる	

期	考查	単元名	学習内容・自己評価	備考
二 学 期	中間 考 査	7章 確率 1 確率 これからの数学3 5章 相似 1 相似な図形	☐ 起こり得るすべての場合の数と、ある事柄の起こる場合の数からその確率を求めることができる ☐ 拡大図、縮図が身の周りにあることに関心を持ち、それらを通して相似な図形の性質を考察する ☐ 2つの三角形が相似となる条件を理解する ☐ 相似比の意味を理解する ☐ 相似条件を用いて、三角形の相似を証明する手順を理解し、三角形の相似が証明できる	
	期 末 考 査	2 平行線と線分の比 3 相似の利用	☐ 三角形と平行線、平行線と線分の比についての定理を理解する ☐ 三角形の midpoint 連結定理を理解し、利用できる ☐ 三角形の重心を理解し、利用できる ☐ 三角形の角の二等分線と辺の比の関係を理解する ☐ 補助線を用いて、線分の比を他の線分に移すことができる ☐ 円に内接する四角形と三角形の相似について理解する ☐ 相似な図形で、相似比と面積比の関係について学び、それを利用し面積を求めることができる ☐ 相似な立体で、相似比と体積比の関係について学び、それを利用し体積を求めることができる	
	期 末 考 査	これからの数学3 6章 円 1 円	☐ 円と弦の関係を理解する ☐ 円と接線の関係を理解する ☐ 円周角の定理について学ぶ ☐ 円周角の定理を用いて、角度を求められる ☐ 円周角の定理の逆から、4点が円周上にある条件を考える ☐ 円に内接する四角形の性質について学ぶ ☐ 接弦定理について理解する ☐ 円周角の定理と三角形の相似について理解する	
【学習上の留意点】 問題集は定期的に回収する。授業進度に合わせて各自が家庭で取り組むこと。 教科書の問題だけではなく、プリント等を利用して演習し、理解を深める。				

教科 数学		科目 数学A	3 単位	対象学年 中学3年
【年間学習目標】 ＊教科書の内容を正確に理解する。 ＊理解できた事柄を正しく活用して問題が解けるように、問題演習を反復し、理解の定着を図る。 ＊授業の内容を活かし、副教材などを用いて応用力を身につける。				
【評価の観点】 定期考査、S時限小テスト、問題集などの提出物の内容、授業への取組みを総合的に評価する。				
【使用教材】 教科書：高等学校 数学I（数研出版） 副教材：REPEAT 数学I＋A（数研出版） チャート式 基礎と演習 数学I＋A（数研出版）				
期	考査	単元名	学習内容・自己評価	備 考
一 学 期	中間 考 査	これからの数学3 8章 標本調査 1 母集団と標本 数学I 第1章 数と式 第1節 式の計算 1 多項式の加法と減法 2 多項式の乗法 3 因数分解 発展 3次式の展開と因数分解 第2節 実数 4 実数 5 根号を含む式の計算 発展 2重根号	☐ 全数調査、標本調査、母集団、標本について理解する ☐ 多項式を降べきの順、昇べきの順に整理できる ☐ 交換・結合・分配法則を用いて計算できる ☐ 因数分解の公式を利用できる ☐ 文字の置き換えを利用し、因数分解ができる ☐ 次数の最も低い文字に着目し、因数分解ができる ☐ 有理数、無理数、実数を理解する ☐ 平方根の意味・性質を理解する ☐ 根号を含む式の加法、減法、乗法の計算ができる ☐ 分母の有理化ができる	
	期 末 考 査	第1章 数と式 第3節 1次不等式 6 不等式の性質 7 1次不等式 8 絶対値を含む方程式・不等式 研究 絶対値と場合分け 第2章 集合と命題 1 集合 研究 3つの集合の共通部分と和集合	☐ 不等式の意味を理解し、1次不等式が解ける ☐ 連立不等式の意味を理解し、連立1次不等式が解ける ☐ 様々な事柄を不等式で表すことができ、1次不等式の応用問題が解ける ☐ 絶対値を含む方程式や不等式が解ける ☐ 条件を満たすものを集合の要素としてとらえる ☐ 集合を要素で書き並べる方法と条件で示す方法を使い分けられる ☐ 部分集合、共通部分、和集合、空集合、補集合を理解する ☐ ド・モルガンの法則を利用できる	

期	考査	単元名	学習内容・自己評価	備 考
二 学 期	中 間 考 査	第2章 集合と命題 2 命題と条件 3 命題と証明 研究 $\sqrt{2}$ が無理数であることの証明	☐ 命題の真偽を, 集合の包含関係と結びつけられる ☐ 反例をあげ, 命題が偽であることを調べられる ☐ 条件の否定, ド・モルガンの法則を理解し, 様々な条件の否定が求められる ☐ 必要条件, 十分条件, 必要十分条件, 同値の定義を理解する ☐ 命題の逆・裏・対偶の意味を理解し, それらの真偽を調べられる ☐ 対偶による証明法や背理法を用いて証明できる	
		第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 1 関数とグラフ	☐ 関数の意味を理解する ☐ 定義域・値域の関係を理解する	
	期 末 考 査	第3章 2次関数 2 2次関数のグラフ 研究 グラフの平行移動 グラフの対称移動	☐ 2次関数とそのグラフの特徴を理解する ☐ 平方完成を用いて, 2次関数 $y = ax^2 + bx + c$ のグラフの軸と頂点を調べ, グラフがかかる ☐ グラフの平行移動や対称移動について理解する	
		第2節 2次関数の値の変化 3 2次関数の最大・最小 4 2次関数の決定	☐ 平方完成を用いて, 最大値, 最小値を求められる ☐ 2次関数の決定条件を理解する ☐ 与えられた条件を関数の式に表現できる ☐ 連立3元1次方程式の解き方を理解する	
三 学 期	期 末 考 査	第3章 2次関数 第3節 2次方程式と2次不等式 5 2次方程式 6 2次関数のグラフとx軸 の位置関係 発展 放物線と直線の共有点の座標 総合演習	☐ 2次関数と2次方程式の関係を理解する ☐ 因数分解や解の公式を用いて2次方程式が解ける ☐ 2次方程式の解の考察において, 判別式が使える ☐ 2次関数のグラフとx軸との共有点の個数や位置関係を, 判別式から考察できる ☐ 1年間の総合演習を行い, 理解の定着を図る	
【学習上の留意点】 問題集用ノートは定期的に回収する。問題集は授業でも扱うが、進度に合わせて各自が家庭で取り組むこと。 教科書の問題だけではなく、プリント等を利用して演習し、理解を深める。 中高一貫クラス用の参考書を持たせ、高校数学の基礎基本の定着を図る。				

教科 数学		科目 数学B	2.5 単位	対象学年 中学3年
【年間学習目標】 ＊教科書の内容を正確に理解する。 ＊理解できた事柄を正しく活用して問題が解けるように、問題演習を反復し、理解の定着を図る。 ＊授業の内容を活かし、副教材などを用いて応用力を身につける。				
【評価の観点】 定期考査，S時限小テスト，問題集などの提出物の内容，授業の取組み状況を総合的に評価する。				
【使用教材】 教科書：これからの数学 3（数研出版） 数学A（数研出版） 副教材：中学数学スタンダード問題集 3（数研出版） マイクリア数学 中学3年（教育開発出版） REPEAT 数学I＋A（数研出版） チャート式 基礎と演習 数学I＋A（数研出版）				
期	考査	単元名	学習内容・自己評価	備 考
一 学 期	中 間 考 査	これからの数学3 7章 三平方の定理 1 三平方の定理 2 三平方の定理の利用	☐ 三平方の定理の意味と性質を理解する ☐ 三平方の定理を、適当な図を用いて証明できる ☐ 直角三角形の2辺の長さから、残る1辺の長さを求められる ☐ 三平方の定理の逆の意味と性質を理解し、与えられた三角形が直角三角形かどうかを判断できる ☐ 三角定規の3辺の比を理解し、利用できる ☐ 多角形における線分の長さや面積を求められる ☐ 座標平面上の2点間の距離を求められる ☐ 円の弦の長さや、円外の1点からその円にひいた接線の長さを求められる ☐ 2円の共通接線の長さを求められる ☐ 立体における線分の長さや面積、体積を求められる ☐ 立体に巻きつけた糸などの最短経路の長さを求められる ☐ 球に内・外接する立体を調べられる	
	期 末 考 査	高等学校 数学A 第2章 図形の性質 第1節 平面図形 1 三角形の辺の比 2 三角形の外心・内心・重心 3 チェバの定理・メネラウスの定理 研究 三角形の辺と角 4 円に内接する四角形	☐ 線分の内分・外分を理解する ☐ 三角形の角の二等分線と比の関係を理解する ☐ 三角形の外心・内心・重心の性質を理解し、求値問題や証明ができる ☐ メネラウス・チェバの定理を理解し、問題が解ける ☐ 三角形の辺と角の大小関係を理解する ☐ 三角形の3辺の長さの性質を理解する ☐ 様々な三角形の性質を証明問題に応用できる ☐ 円周角の定理を理解し、様々な角の大きさを求められる ☐ 円に内接する四角形の性質を理解し、様々な角の大きさを求められる	

期	考查	単元名	学習内容・自己評価	備考
二 学 期	中間 考 査	5 円と直線 研究 方べきの定理の逆 6 2つの円 7 作図 第2節 空間図形 8 直線と平面 研究 三垂線の定理 9 空間図形と多面体 研究 正多面体の体積 研究 正多面体の種類	☐ 円と直線の位置関係を理解する ☐ 円の接線の性質を理解し、線分の長さや角の大きさを求められる ☐ 接線と弦の作る角(接弦定理)について理解し、線分の長さや角の大きさを求められる ☐ 方べきの定理について理解し、線分の長さを求められる ☐ 2つの円の位置関係や共通接線を理解し、線分の長さを求められる ☐ 空間における直線や平面の位置関係を理解する ☐ 多面体などに関する基本的な性質を理解する	
	期 末 考 査	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 1 集合の要素の個数 2 場合の数 3 順列 4 組合せ 研究 重複を許して作る組合せ	☐ 集合の要素の個数を求められる ☐ 樹形図などを利用して、もれなく重複することなく場合の数を数えられる ☐ 和の法則、積の法則を利用して考えられる ☐ 複雑な事象についても、和の法則、積の法則を利用して場合の数を数えられる ☐ 順列・組合せの意味を理解し、それらの総数を求められる ☐ 既知の順列や積の法則をもとにして、円順列、重複順列を考えられる ☐ 順列と組合せの違いを明確にできる ☐ 同じものを含む順列・組合せの総数を求められる ☐ 様々な場合の数の数を求めることができる ☐ 試行の結果を事象としてとらえ、事象を集合と結びつけて考えられる	
	期 末 考 査	第2節 確率 5 事象と確率 6 確率の基本性質 7 独立な試行と確率 8 条件付き確率 研究 原因の確率	☐ 確率の意味、試行や事象、確率の定義を理解する ☐ 確率の基本性質を理解し、積事象、和事象、余事象などの確率の求められる ☐ 確率の計算に集合を活用し、複雑な事象の確率を求められる ☐ 独立な試行の意味を理解し、その確率が求められる ☐ 複雑な独立試行の確率を、公式や加法定理などを用いて求められる ☐ 反復試行の意味を理解し、その確率を求められる ☐ 条件付き確率の意味を理解し、それを用いて様々な確率を求められる	
【学習上の留意点】 問題集用ノートは定期的に回収する。授業進度に合わせて各自が家庭で取り組むこと。 教科書の問題だけではなく、プリント等を利用して演習し、理解を深める。 中高一貫クラス用の参考書を利用し、高校数学の基礎基本の定着を図る。				

教科 数学		科目 数学A	3 単位	対象学年 中学3年（特別選抜クラス）
【年間学習目標】				
*教科書の内容を正確に理解する。				
*理解できた事柄を正しく活用して問題が解けるように、問題演習を反復し、理解の定着を図る。				
*授業の内容を活かし、副教材などを用いて応用力を身につける。				
【評価の観点】				
定期考査，S時限小テスト，問題集などの提出物の内容，授業への取組みを総合的に評価する。				
【使用教材】				
教科書： 高等学校 数学Ⅰ（数研出版）				
副教材： 4プロセスⅠ＋A（数研出版）				
チャート式 解法と演習 数学Ⅰ＋A（数研出版）				
期	考査	単元名	学習内容・自己評価	備 考
一 学 期	中 間 考 査	これからの数学3 8章 標本調査 1 母集団と標本 数学Ⅰ 第1章 数と式 第1節 式の計算 1 多項式の加法と減法 2 多項式の乗法 3 因数分解 発展 3次式の展開と因数分解 第2節 実数 4 実数 5 根号を含む式の計算 発展 2重根号	☐ 全数調査、標本調査、母集団、標本について理解する ☐ 多項式を降べきの順，昇べきの順に整理できる ☐ 交換・結合・分配法則を用いて計算できる ☐ 因数分解の公式を利用できる ☐ 文字の置き換えを利用し，因数分解ができる ☐ 次数の最も低い文字に着目し，因数分解ができる ☐ 有理数，無理数，実数を理解する ☐ 平方根の意味・性質を理解する ☐ 根号を含む式の加法，減法，乗法の計算ができる ☐ 分母の有理化ができる	
	期 末 考 査	第1章 数と式 第3節 1次不等式 6 不等式の性質 7 1次不等式 8 絶対値を含む方程式・不等式 研究 絶対値と場合分け 第2章 集合と命題 1 集合 研究 3つの集合の共通部分と和集合	☐ 不等式の意味を理解し，1次不等式が解ける ☐ 連立不等式の意味を理解し，連立1次不等式が解ける ☐ 様々な事柄を不等式で表すことができ，1次不等式の応用問題が解ける ☐ 絶対値を含む方程式や不等式が解ける ☐ 条件を満たすものを集合の要素としてとらえる ☐ 集合を要素で書き並べる方法と条件で示す方法を使い分けられる ☐ 部分集合，共通部分，和集合，空集合，補集合を理解する ☐ ド・モルガンの法則を利用できる	

期	考查	単元名	学習内容・自己評価	備考
二 学 期	中間 考 査	第2章 集合と命題 2 命題と条件 3 命題と証明 研究 $\sqrt{2}$ が無理数であることの証明	☐ 命題の真偽を, 集合の包含関係と結びつけられる ☐ 反例をあげ, 命題が偽であることを調べられる ☐ 条件の否定, ド・モルガンの法則を理解し, 様々な条件の否定が求められる ☐ 必要条件, 十分条件, 必要十分条件, 同値の定義を理解する ☐ 命題の逆・裏・対偶の意味を理解し, それらの真偽を調べられる ☐ 対偶による証明法や背理法を用いて証明できる	
		第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 1 関数とグラフ	☐ 関数の意味を理解する ☐ 定義域・値域の関係を理解する	
	期 末 考 査	第3章 2次関数 2 2次関数のグラフ 研究 グラフの平行移動 グラフの対称移動 第2節 2次関数の値の変化 3 2次関数の最大・最小 4 2次関数の決定	☐ 2次関数とそのグラフの特徴を理解する ☐ 平方完成を用いて, 2次関数 $y = ax^2 + bx + c$ のグラフの軸と頂点を調べ, グラフがかける ☐ グラフの平行移動や対称移動について理解する ☐ 平方完成を用いて, 最大値, 最小値を求められる ☐ 2次関数の決定条件を理解する ☐ 与えられた条件を関数の式に表現できる ☐ 連立3元1次方程式の解き方を理解する	
三 学 期	期 末 考 査	第3章 2次関数 第3節 2次方程式と2次不等式 5 2次方程式 6 2次関数のグラフとx軸 の位置関係 発展 放物線と直線の共有点の座標 総合演習	☐ 2次関数と2次方程式の関係を理解する ☐ 因数分解や解の公式を用いて2次方程式が解ける ☐ 2次方程式の解の考察において, 判別式が使える ☐ 2次関数のグラフとx軸との共有点の個数や位置関係を, 判別式から考察できる ☐ 1年間の総合演習を行い, 理解の定着を図る	
【学習上の留意点】 問題集用ノートは定期的に回収する。問題集は授業でも扱うが、進度に合わせて各自が家庭で取り組むこと。 教科書の問題だけではなく、プリント等を利用して演習し、理解を深める。 特別選抜クラス用の参考書を持たせ、大学入試のレベルまでの演習を行い、理解を深める。				

教科 数学		科目 数学B	2.5 単位	対象学年 中学3年（特別選抜クラス）	
【年間学習目標】					
*教科書の内容を正確に理解する。					
*理解できた事柄を正しく活用して問題が解けるように、問題演習を反復し、理解の定着を図る。					
*授業の内容を活かし、副教材などを用いて応用力を身につける。					
【評価の観点】					
定期考査、S時限小テスト、問題集などの提出物の内容、授業の取組み状況を総合的に評価する。					
【使用教材】					
教科書： これからの数学 3（数研出版） 数学 A（数研出版）					
副教材： 中学数学スタンダード問題集 3（数研出版） マイクリア数学 中学3年（教育開発出版） 4プロセス I・A（数研出版） チャート式 解法と演習 数学 I + A（数研出版）					
期	考査	単元名	学習内容・自己評価		備 考
一 学 期	中間 考査	これからの数学3 7章 三平方の定理 1 三平方の定理 2 三平方の定理の利用	☐ 三平方の定理の意味と性質を理解する ☐ 三平方の定理を、適当な図を用いて証明できる ☐ 直角三角形の2辺の長さから、残る1辺の長さを求められる ☐ 三平方の定理の逆の意味と性質を理解し、与えられた三角形が直角三角形かどうかを判断できる ☐ 三角定規の3辺の比を理解し、利用できる ☐ 多角形における線分の長さや面積を求められる ☐ 座標平面上の2点間の距離を求められる ☐ 円の弦の長さや、円外の1点からその円にひいた接線の長さを求められる ☐ 2円の共通接線の長さを求められる ☐ 立体における線分の長さや面積、体積を求められる ☐ 立体に巻きつけた糸などの最短経路の長さを求められる ☐ 球に内・外接する立体を調べられる		
	期末 考査	高等学校 数学 A 第2章 図形の性質 第1節 平面図形 1 三角形の辺の比 2 三角形の外心・内心・重心 3 チェバの定理・メネラウスの定理 研究 三角形の辺と角 4 円に内接する四角形	☐ 線分の内分・外分を理解する ☐ 三角形の角の二等分線と比の関係を理解する ☐ 三角形の外心・内心・重心の性質を理解し、求値問題や証明ができる ☐ メネラウス・チェバの定理を理解し、問題が解ける ☐ 三角形の辺と角の大小関係を理解する ☐ 三角形の3辺の長さの性質を理解する ☐ 様々な三角形の性質を証明問題に応用できる ☐ 円周角の定理を理解し、様々な角の大きさを求められる ☐ 円に内接する四角形の性質を理解し、様々な角の大きさを求められる		

期	考查	単元名	学習内容・自己評価	備考
二 学 期	中間 考 査	5 円と直線 研究 方べきの定理の逆 6 2つの円 7 作図 第2節 空間図形 8 直線と平面 研究 三垂線の定理 9 空間図形と多面体 研究 正多面体の体積 研究 正多面体の種類	☐ 円と直線の位置関係を理解する ☐ 円の接線の性質を理解し、線分の長さや角の大きさを求められる ☐ 接線と弦の作る角(接弦定理)について理解し、線分の長さや角の大きさを求められる ☐ 方べきの定理について理解し、線分の長さを求められる ☐ 2つの円の位置関係や共通接線を理解し、線分の長さを求められる ☐ 空間における直線や平面の位置関係を理解する ☐ 多面体などに関する基本的な性質を理解する	
	期末 考 査	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 1 集合の要素の個数 2 場合の数 3 順列 4 組合せ 研究 重複を許して作る組合せ	☐ 集合の要素の個数を求められる ☐ 樹形図などを利用して、もれなく重複することなく場合の数を数えられる ☐ 和の法則、積の法則を利用して考えられる ☐ 複雑な事象についても、和の法則、積の法則を利用して場合の数を数えられる ☐ 順列・組合せの意味を理解し、それらの総数を求められる ☐ 既知の順列や積の法則をもとにして、円順列、重複順列を考えられる ☐ 順列と組合せの違いを明確にできる ☐ 同じものを含む順列・組合せの総数を求められる ☐ 様々な場合の数の数を求めることができる ☐ 試行の結果を事象としてとらえ、事象を集合と結びつけて考えられる	
三 学 期	期末 考 査	第2節 確率 5 事象と確率 6 確率の基本性質 7 独立な試行と確率 8 条件付き確率 研究 原因の確率	☐ 確率の意味、試行や事象、確率の定義を理解する ☐ 確率の基本性質を理解し、積事象、和事象、余事象などの確率の求められる ☐ 確率の計算に集合を活用し、複雑な事象の確率を求められる ☐ 独立な試行の意味を理解し、その確率が求められる ☐ 複雑な独立試行の確率を、公式や加法定理などを用いて求められる ☐ 反復試行の意味を理解し、その確率を求められる ☐ 条件付き確率の意味を理解し、それを用いて様々な確率を求められる	
【学習上の留意点】 問題集は定期的に回収する。授業進度に合わせて各自が家庭で取り組むこと。 教科書の問題だけではなく、プリント等を利用して演習し、理解を深める。 特別選抜クラス用の参考書を利用し、大学入試のレベルまでの演習を行い、理解を深める。				

教科 理科		科目 理科	4 単位	対象学年 中学 1 年
【年間学習目標】 自然科学に対する興味関心をもって追求する態度を育てるとともに、科学的な見方や考え方を養う。 また、観察・実験の原理を理解し、正しく実行し、結果をもとに考察できる力を育てる。				
【評価の観点】 定期考查結果、小テスト結果、長期休業課題や実験レポートなどの提出物、 授業の取組み状況を総合的に評価する。				
【使用教材】 教科書；東京書籍 新しい科学 1 副教材；育伸社 Sirius 理科 vol.1				
期	考查	単元名	学習内容・自己評価	備 考
一 学 期	中間 考 査	単元 1 いろいろな生物とその共通点 第 1 章 生物の観察と分類のしかた 1 身近な生物の観察 2 生物の特徴と分類 第 2 章 植物の分類 1 身近な植物の分類 2 果実をつくる花のつくり 3 裸子植物と被子植物 4 花をさかせず種子をつくらない植物 5 さまざまな植物の分類	☐ 身近な生物をルーペ等で観察する ☐ 正しい方法でスケッチをすることができる ☐ 生物をその特徴に注目して分類することができる ☐ 植物を分類するときにとどの特徴に注目すれば良いか理解する ☐ 果実をつくる花のつくりについて理解する ☐ 果実をつくらない植物と果実をつくらない植物の違いを理解する ☐ 花以外での特徴による分類を理解する ☐ シダ植物とコケ植物のからだのつくりを観察する ☐ 種子をつくらない植物は、胞子でふえることを理解する ☐ さまざまな種子植物の特徴を理解し、分類ができる ☐ 植物を分類することができる	【観察】 ・身近な生物の観察 【観察】 ・ツツジの観察 ・マツのりん片 【観察】 ・シダ植物、コケ植物の観察
	期末 考 査	第 3 章 動物の分類 1 身近な動物の分類 2 セキツイ動物 3 無セキツイ動物 4 動物の分類表の作成 単元 2 身のまわりの物質 第 1 章 身のまわりの物質とその性質 1 物の調べ方 2 金属と非金属 3 さまざまな金属の見分け方 4 白い粉末の見分け方	☐ 動物のからだのつくりについて理解する ☐ セキツイ動物を分類することができる ☐ 無セキツイ動物を分類することができる ☐ 動物の分類表を適切に作成することができる ☐ 物の調べ方を理解する ☐ 身の回りの物質を金属と非金属に分類できる ☐ 金属に共通な性質と非金属について説明できる。 ☐ 密度を計算によって求めることができる。 ☐ 液体中の物質のうきしずみは、液体と物質の密度の大小で決まることを説明できる。 ☐ ガスバーナーを安全に正しく使うことができる。 ☐ 実験の結果から、白い粉末の物質が何かを予想できる。 ☐ 有機物と無機物について、例をあげて説明できる。	【観察】 ・魚、エビの観察 【観察】 ・イカ、貝の観察 【実験】 ・金属を区別する ・身近な金属の密度を求める ・ガスバーナーの使い方をマスターする ・白い粉末を区別する

期	考查	単元名	学習内容・自己評価	備 考
二 学 期	中 間 考 査	第2章 気体の性質 1 身のまわりの気体の性質 2 気体の性質と集め方 第3章 水溶液の性質 1 物質が水にとけるようす 2 溶解度と再結晶 第4章 物質の姿と状態変化 1 物質の状態変化 2 物質の状態変化と体積・質量の 変 化 3 状態変化が起こるときの温度と蒸留	□気体(酸素, 二酸化炭素, 窒素, 水素, アンモニア)の つくり方, 集め方, 性質, 同定法を説明できる。 気体の性質と集め方との関係を説明できる。 □溶質, 溶媒, 溶液について, 例をあげて説明できる。 □水溶液中の物質をろ過によってとり出すことができる。 □純粋な物質や混合物について, 例をあげて説明できる。 □質量パーセント濃度を計算によって求めることができる。 □溶解度を理解し、データを元に溶解度曲線を書くことができる。 □結晶と再結晶, 飽和水溶液と溶解度について例をあげて説明できる。 □再結晶法により純粋な物質を取り出すことができる。 □状態変化、物質の三態について説明できる。 □状態変化と体積・質量との関係を説明できる □実験で得られた数値からグラフを作成することができる □水以外の物質についても、状態変化と温度との関係を考える。 □沸点を測定する実験を行い、沸騰しているときの温度が一定であることを指摘できる。 □物質の沸点や融点を説明できる。 □沸点や融点のデータをもとに、温度によって物質がどのような状態であるか識別することができる。 □蒸留によって分離した物質を、同定できる。	・気体を発生させてその性質を調べよう① ・気体を発生させてその性質を調べよう② ・気体を発生させてその性質を調べよう③ ・水に溶けた物質を取り出そう！ ・水の状態変化と温度の変化 ・赤ワインに含まれる物質分離しよう

期	考查	単元名	学習内容・自己評価	備 考
二 学 期	期 末 考 査	単元3 身のまわりの現象		
		第1章 光の世界		
		1 物の見え方	☐ 光の直進について説明できる。 ☐ 物体が見えるときには、光源からの光や反射した光が目に入っていることを説明できる。	
		2 光の反射	☐ 光の反射の法則について、説明できる。 ☐ 光の反射の法則を利用して、鏡で物体をうつしたときの見え方について説明できる。	・光の反射の規則性について調べよう ・光の屈折
		3 光の屈折	☐ 光の屈折と全反射について説明できる。 ☐ 光の屈折による物体の見え方を、光の進み方と関連づけて、具体的に説明できる。	・凸レンズに入射した光の道筋 ・凸レンズによってできる像
		4 レンズのはたらき	☐ 凸レンズの焦点と焦点距離を説明できる。 ☐ 凸レンズによる実像、虚像のでき方を、光の進み方から説明できる。 ☐ 凸レンズによって物体よりも小さい実像をつくる条件を考えることができる。	
		第2章 音の世界		
		1 音の伝わり方	☐ 音が物体の振動によって生じることを、説明できる。	・音の発生と伝わり方 ・オシロスコープで音の波形を観察しよう
		2 音の性質	☐ 音の大小と振幅との関係、音の高低と振動数との関係について、説明できる。 ☐ 振幅、振動数と音を、それぞれ関係づけて説明できる。 ☐ 音源までの距離について、音の速さと関連づけて説明できる。	
		第3章 力の世界		
		1 日常生活のなかの力	☐ 力のはたらきについて説明できる ☐ 身のまわりの力について理解している	
		2 力のはかり方	☐ 1N という力の大きさを説明できる。 ☐ 実験で調べた結果を正しくグラフに表すことができる。 ☐ グラフから力の大きさとバネののびの関係(フックの法則)について、まとめることができる。	・力の大きさとばねの伸び
		3 力の表し方	☐ 地球上の重力や、重さと重力との関係について説明できる。 ☐ 重さと質量のちがいについて説明できる。 ☐ 力の表し方や力の要素について説明できる。 ☐ 力を正しく表すことができる	
		4 力のつり合い	☐ 力のつり合いについて説明できる ☐ 1つの物体にはたらく2力のつり合いの条件を理解している ☐ 静止している物体にはたらく力について理解している	・1つの物体にはたらく2つの力

期	考查	単元名	学習内容・自己評価	備 考
三 学 期	期 末 考 査	単元4 大地の変化		
		第1章 火をふく大地		
		1 火山の姿からわかること	☐ マグマの種類と火山の形や色の関係を理解する	
		2 火山がうみ出す物	☐ マグマの違いによる噴火の様子の違いを理解する ☐ 噴火によってうみ出される物は何かを説明できる ☐ 火山灰中に含まれる鉱物の種類を理解する ☐ 火山灰の広がりによって分かることを説明できる	【観察】 ・火山灰の観察
		3 火山の活動と火成岩	☐ 火成岩の分類と、その性質について理解する ☐ 火成岩のつくりとその成り立ちを説明することができる	【観察】 ・火成岩の観察
		4 火山とともにくらす	☐ 火山によりもたらされる物が何かを理解する ☐ 火山による災害とその対策について理解する	
		第2章 動き続ける大地		
		1 地震のゆれの伝わり方	☐ 地震のゆれの伝わり方について説明できる ☐ 震度とマグニチュードについて理解する ☐ 地震波の種類と性質を理解する ☐ 地震計の記録から様々な情報が得られることを理解する	【実習】 ・地震の波の伝わり方
		2 地震が起こるところ	☐ 震央の分布から、地震とプレートの運動の関係を理解する ☐ 日本付近で発生する地震の特徴を理解する ☐ 断層による地震発生のメカニズムを理解する ☐ プレートの境界での地震発生のメカニズムを理解する	
		3 地震に備えるために	☐ 地震によってもたらされる現象を理解する ☐ 地震に備えるためにどのようなことができるか説明できる	
		第3章 地層から読み取る大地の変化		
		1 地層のつくりとはたらき	☐ 流水による侵食・運搬・堆積作用を理解する ☐ 侵食・堆積作用による地形の変化を理解する	【観察】 ・堆積岩の観察
		2 堆積岩	☐ 堆積岩について理解する	
		3 地層や化石からわかること	☐ 化石について理解する ☐ 示相化石と示準化石について説明できる ☐ 示準化石から地質年代を導くことができる ☐ 示相化石から環境を推定することができる ☐ 地球の歴史と生物の変遷を理解する	【観察】 ・化石の観察
		4 大地の変動	☐ プレートテクトニクスを理解する ☐ 地層の傾きがどのようにして起こるか理解する ☐ しゅう曲と断層をわかりする	
		5 身近な大地の歴史	☐ 柱状図から地層の広がり方を推測できる ☐ 地層の重なりから大地の変動を推測することができる	

【学習上の留意点】 必要に応じてオリジナル演習・実験プリントを配布し、基礎力を定着させる。

なお、問題集は2・3年次でも使用するの、年度終わりに廃棄しないこと。

教科 理科		科目 理科	4 単位	対象学年	中学 2 年
【年間学習目標】					
自然科学に対する興味関心をもって追求する態度を育てるとともに、科学的な見方や考え方を養う。 また、観察・実験の原理を理解し、正しく実行し、結果をもとに考察できる力を育てる。					
【評価の観点】					
定期考査結果、小テスト結果、長期休業課題や実験レポートなどの提出物、 授業の取組み状況を総合的に評価する。					
【使用教材】					
教科書；東京書籍 新しい科学 2 副教材；育伸社 Sirius 理科 vol.2					
期	考査	単元名	学習内容・自己評価	備 考	
一 学 期	中間 考査	単元1 化学変化と原子・分子 第1章 物質の成り立ち 1 ホットケーキの秘密 2 水の分解 3 物質をつくっているもの 4 分子と化学式 5 単体と化合物・物質の分類 第2章 物質どうしの化学変化 1 異なる物質の結びつき 2 化学変化を化学式で表す 第3章 酸素がかかわる化学変化 1 物が燃える変化 2 酸化物から酸素をとる化学変化	・炭酸水素ナトリウムを加熱すると、どのような変化が起こってホットケーキがやわらかくなるのか調べる。 ・水に電流を流すと、どのような変化が起こるのか調べる。 ・どのような物質も「小さな粒子」からできているのか考える。 ・分子は、原子がどのように結びついてできているのか考える。 ・化学式からわかることは何か考える。 ・物質と物質とが結びつく化学変化とは、どのような変化か調べる。 ・化学変化を化学式を使って表すには、どのような決まりがあるのか調べる。 ・物質が燃えるとき、どのような変化が起こっているか調べる。 ・金属の酸化物から酸素をとって、金属のみにするには、どうすればよいか調べる。	・実験1 炭酸水素ナトリウムを加熱したときの変化 ・実験2 水に電流を流したときの変化 ・実験3 鉄と硫黄が結びつく変化 ・実習1 化学変化のモデル ・実験4 鉄を燃やしたときの変化 ・実験5 酸化銅から酸素をとる化学変化	
	期末 考査	第4章 化学変化と物質の質量 1 化学変化と質量の変化 2 物質と物質が結びつくときの物質の割合 第5章 化学変化とその利用 1 化学変化と熱 単元2 生物のからだのつくりとはたらき 第1章 生物と細胞 1 水中の小さな生物 2 植物の細胞 3 動物の細胞 4 生物のからだと細胞	・化学変化が起こる前と後では、物質全体の質量はどうか調べる。 ・2 種類の物質が結びつくとき、それぞれの物質の質量にはどのような関係があるか調べる。 ・どのような化学変化でも、外部に熱を放出するか調べる。 ・小さな生物はどのような外形や、大きさなのか調べる。 ・植物のからだにどのような特徴があるか、顕微鏡を使って調べる。 ・動物と植物の細胞には、どのような共通点と相違点があるか調べる。 ・単細胞生物と多細胞生物の細胞には、それぞれどのような特徴があるか考える。	・実験6 化学変化の前と後の質量の変化 ・実験7 金属を熱したときの質量の変化 ・実験8 化学変化による温度変化 ・観察1 水中の小さな生物の観察 ・観察2 植物のからだの顕微鏡観察 ・観察3 動物の細胞の観察	

期	考查	単元名	学習内容・自己評価	備 考
二 学 期	中 間 考 査	第2章 植物のからだのつくりとはたらき 1 葉と光合成 2 光合成に必要なもの 3 植物と呼吸 4 植物と水 5 水の通り道 第3章 動物のからだのつくりとはたらき 1 消化のしくみ 2 吸収のしくみ 3 呼吸のはたらき 4 血液のはたらき 5 排出のしくみ 第4章 刺激と反応 1 刺激と反応 2 神経のはたらき 3 骨と筋肉のはたらき	・光合成は葉の細胞の中のどこで行われているのか調べる。 ・光合成でデンプンがつくられるときに、何が材料になるのか調べる。 ・植物はいつ呼吸や光合成を行っているのか調べる。 ・植物の吸水は蒸散とどのように関係しているのか調べる。 ・茎や葉の水の通り道はどのようなつくりをしているのか調べる。 ・食物は、消化される過程で、どのように変化していくのか調べる。 ・消化された食物は、体内で、どのように吸収されていくのか考える。 ・細胞が養分からエネルギーをとり出すときに必要な酸素は、どのようにからだにとり入れられ、細胞に届けられるのか考える。 ・心臓がどのようにして血液を循環させているのか、血管にはどのような種類があるのか考える。 ・尿はどこで何からつくられるのか考える。 (特設ページ含む) ・動物のからだで刺激を受けとっている器官は、どのようなものがあり、どのようなはたらきをするのか考える。 ・感覚器官で受けとられた刺激は、神経系のどこを伝わり、どのようにして反応を引き起こすのか調べる。 ・うでやあしが動くとき、骨や筋肉は、どのようなはたらきをするか調べる。	・実験1 葉の細胞の中で光合成が行われている部分 ・実験2 光合成と二酸化炭素の関係 ・実験3 吸水と蒸散の関係 ・観察4 水の通り道 ・実験4 だ液によるデンプンの変化 ・実験5 刺激に対するヒトの反応
		単元3 天気とその変化 第1章 気象の観測 1 気象の観測 2 大気圧と圧力 3 気圧と風 4 水蒸気の変化と湿度 第2章 雲のでき方と前線 1 雲のでき方 2 気団と前線 第3章 大気の動きと日本の天気 1 大気の動きと天気の変化 2 日本の天気と季節風 3 日本の天気の特徴 4 天気の変化の予測 5 気象現象がもたらすめぐみと災害	・気象要素と天気の変化には、どのような関係があるか調べる。 ・気圧とは、何か調べる。 ・気圧と風には、どのような関係があるのか考える。 ・水蒸気水滴に変化するのがどのようなときか調べる。 ・雲ができるのはなぜか調べる。 ・前線の周辺ではどのようなことが起こるのか考える。 ・なぜ日本付近では西から東へ天気が変わるのか考える。 ・日本列島付近でふく季節風がふき、冬と夏で風向が変わるのはなぜか考える。 ・日本の四季に生じる特徴的な天気は、どのようにして生じるのか考える。 ・翌日の天気を予想するには、どのようにすればよいか調べる。 ・気象現象によって、どのようなめぐみや災害がもたらされるのか考える。	・観察1 校内の気象観測 ・実験1 水蒸気水滴に変わる条件 ・実験2 気圧の低いところで起こる変化 ・実習1 翌日の天気の予想

期	考查	単元名	学習内容・自己評価	備 考
三 学 期	期 末 考 査	単元4 電気の世界 第1章 静電気と電流 1 静電気と放電 2 電流の正体 3 放射線の性質と利用 第2章 電流の性質 1 電気の利用 2 回路に流れる電流 3 回路に加わる電圧 4 電圧と電流と抵抗 5 電気エネルギー 第3章 電流と磁界 1 電流がつくる磁界 2 モーターのしくみ 3 発電機のしくみ 4 直流と交流	・静電気には、どのような性質があるのか調べる。 ・電流は、何が流れているものなのか考える。 ・放射線には、どのような性質があり、どのように利用されているか考える。 ・回路に電流が流れるためには、どのような条件が必要か考える。 ・直列回路と並列回路の各点を流れる電流の大きさは、どのようになるか調べる。 ・直列回路や並列回路の各区間に加わる電圧は、どのようになるか調べる。 ・回路に加える電圧と流れる電流の大きさには、どのような関係があるか調べる。 ・電流によって発生する熱の量は、どのような場合に大きくなるか調べる。 ・コイルのまわりの磁界のようすは、どのようになっているか調べる。 ・磁界の中に入れたコイルに電流を流すと、コイルはどうなるか調べる。 ・コイルと磁石で電流をつくり出すには、どのようにすればよいか調べる。 ・乾電池の電流とコンセントの電流は、どのようにちがうのか考える。	・実験1 静電気の性質 ・実験2 直列回路と並列回路を流れる電流 ・実験3 直列回路と並列回路に加わる電圧 ・実験4 電圧と電流の関係 ・実験5 電熱線の発熱と電力の関係 ・実験6 コイルを流れる電流がつくる磁界 ・実験7 磁界の中で電流を流したコイルのようす ・実験8 コイルと磁石による電流の発生
		【学習上の留意点】 必要に応じてオリジナル演習・実験プリントを配布し、基礎力を定着させる。		

教科 理科		科目 理科	4 単位	対象学年 中学 3 年
【年間学習目標】 自然科学に対する興味関心をもって追求する態度を育てるとともに、科学的な見方や考え方を養う。 また、観察・実験の原理を理解し、正しく実行し、結果をもとに考察できる力を育てる。				
【評価の観点】 定期考查結果、小テスト結果、長期休業課題や実験レポートなどの提出物、 授業の取組み状況を総合的に評価する。				
【使用教材】 教科書；東京書籍 新しい科学 3 副教材；育仲社 Sirius21 理科 vol.3				
期	考查	単元名	学習内容・自己評価	備 考
一 学 期	中 間 考 査	単元 1 化学変化とイオン 第 1 章 水溶液とイオン 1 水溶液と電流 2 電解質の水溶液の中で起こる変化 3 イオンと原子のなり立ち 第 2 章 酸、アルカリとイオン 1 酸性やアルカリ性の水溶液の性質 2 酸性、アルカリ性の正体 3 酸とアルカリを混ぜ合わせたときの 変化	・水に電流が流れるのはどのようなときか調べる。 ・電解質の水溶液に電流が流れるとき、水溶液の中ではどのような変化が起こっているか調べる。 ・原子が電気を帯びるとすれば、どのような状態か考える。 ・酸性の水溶液やアルカリ性の水溶液には、それぞれどのような性質があるか調べる。 ・酸性やアルカリ性の水溶液には、それぞれ何が共通して存在しているか調べる。 ・酸の水溶液にアルカリの水溶液を加えていくと、どのような変化が起きるか調べる。	・実験 1 電流が流れる水溶液 ・実験 2 塩化銅水溶液の電気分解 ・実験 3 酸性、アルカリ性の水溶液の性質 ・実験 4 酸性・アルカリ性を示すものの正体 ・実験 5 酸とアルカリを混ぜ合わせたときの変化
	期 末 考 査	第 3 章 化学変化と電池 1 電解質の水溶液の中の金属板と電流 2 金属のイオンへのなりやすさのちがいと電池のしくみ 3 ダニエル電池 4 身のまわりの電池 単元 2 生命の連続性 第 1 章 生物の成長と生殖 1 生物の成長と細胞の変化 2 無性生殖 3 有性生殖 4 染色体の受けつがれ方 第 2 章 遺伝の規則性と遺伝子 1 遺伝の規則性 2 遺伝子の本体 3 遺伝子や DNA に関する研究成果の活用	・どのような金属板と水溶液の組み合わせならば、電流をとり出すことができるか調べる。 ・金属によって陽イオンへのなりやすさに差はあるのか調べる。 ・ダニエル電池はどのようなしくみで電流をとり出しているか調べる。 ・身のまわりの電池はどのような機器に、どのような目的で使われるか考える。 ・生物が成長するとき、細胞はどのように変化するのか調べる。 ・無性生殖は、どのような生殖か考える。 ・有性生殖は、どのような生殖か考える。 ・親から子へ染色体が受けつがれていくときには、どのような決まりがあるのか考える。 ・親の形質は、どのようにして子や孫に受けつがれるのか考える。 ・遺伝子とは、どのようなものなのか考える。 ・遺伝子や DNA に関する研究成果は、どのように利用されているのか考える。	・実験 6 電流をとり出すために必要な条件 ・実験 7 金属のイオンへのなりやすさの比較 ・実験 8 ダニエル電池の作製 ・観察 1 体細胞分裂の観察 ・観察 2 花粉管の伸長 ・実習 1 遺伝子の組み合わせ

期	考查	単元名	学習内容・自己評価	備 考
二 学 期	中 間 考 査	第3章 生物の多様性と進化 1 生物の歴史 2 水中から陸上へ 3 さまざまな進化の証拠 4 進化と多様性 単元3 運動とエネルギー 第1章 物体の運動 1 物体の運動の記録 2 物体の運動の速さの変化 3 だんだん速くなる運動 4 だんだん遅くなる運動 第2章 力のはたらき方 1 力の合成と分解 2 慣性の法則 3 作用反作用の法則 4 水中ではたらく力	・110, 111ページの図とセキツイ動物の5つのグループの特徴を関連づけて比較すると、どのようなことがわかるか考える。 ・陸上で生活するセキツイ動物はどのように進化してきたのか考える。 ・進化の証拠には、どのようなものがあるのか考える。 ・進化と地球上の生物の多様性には、どのような関係があるのか考える。 ・水平面上で移動する物体の運動を記録タイマーで記録すると、何がわかるか調べる。 ・物体の運動の速さの変化をくわしく調べるには、どうすればよいか考える。 ・物体がだんだん速くなる運動に、力はどのように関係しているか調べる。 ・物体の運動の向きとは逆向きに一定の力がはたらき続けるとき、物体の速さはどのように変化するか考える。 ・1つの物体に、ある角度をもった2力がはたらくとき、どのように表すことができるかを調べる。 ・力がはたらいていないときや、力がはたらいていても合力が0のとき、物体の運動はどうなるかを考える。 ・ある物体が別の物体に力を加えたとき、2つの物体の間でどのように力をおよぼし合うかを考える。 ・水中の物体にはたらく上向きの力の大きさは、物体の何に関係するかを調べる。	・実験1 水平面上での台車の運動 ・実験2 斜面上での台車の運動 ・実験3 角度をもつてはたらく2力 ・実験4 水中の物体にはたらく上向きの力
		第3章 エネルギーと仕事 1 さまざまなエネルギー 2 力学的エネルギー 3 仕事と力学的エネルギー 4 仕事の原理と仕事率 5 エネルギーの変換と保存 単元4 地球と宇宙 プロローグ 星空をながめよう 1 太陽 第1章 地球の運動と天体の動き 1 太陽の1日の動き 2 地球の自転と方位、時刻 3 星の1日の動き 4 天体の1年の動き 5 地軸の傾きと季節の変化 第2章 月と金星の見え方 1 月の満ち欠け 2 日食と月食 3 金星の見え方	・エネルギーには、どのような形態があるか考える。 ・運動する物体の運動エネルギーと位置エネルギーには、どのような関係があるか考える。 ・仕事と力学的エネルギーには、どのような関係があるか調べる。 ・道具を使うと、仕事の大きさはどのようになるか調べる。 ・さまざまに形態を変えると、エネルギーの総量は、どうなるか考える。 ・太陽の表面は、どのようにになっているか調べる。 ・太陽は、1日でどのように動いて見えるか調べる。また、その理由を考える。 ・地球上の方位と時刻は、どのように決められているのか考える。 ・地球の自転と星の1日の動きは、どのような関係か調べる。 ・真夜中に見られる星座は、1年を通してどのように移り変わるか調べる。 ・季節によるさまざまなちがいは、どのようにして生じるか調べる。 ・月が満ち欠けをくり返すのはなぜか調べる。 ・月食や日食は、どのようにして起こるのか考える。 ・金星が満ち欠けして見えるのはなぜか調べる。	・実験5 仕事と力学的エネルギーの関係 ・実験6 滑車を使うときの仕事 ・観察1 太陽の黒点の観察 ・観察2 太陽の1日の動き ・観察3 星の1日の動き方 ・実習1 地球の公転と見える星座の関係 ・実習2 季節による昼と夜の長さの変化 ・実習3 月の満ち欠けについてのモデル実習 ・実習4 金星の満ち欠けについてのモデル実習

期	考查	単元名	学習内容・自己評価	備 考	
三 学 期	期 末 考 査	第3章 宇宙の広がり 1 太陽系の天体 2 宇宙の広がり	・太陽系の天体にはどのようなものがあり、どのような特徴をもっているか調べる。 ・私たちは、宇宙のなかのどこにいるのか考える。		
		単元5 地球と私たちの未来のために 第1章 自然の中の生物 1 生態系 2 生態系における生物の関係 3 炭素の循環と地球温暖化	・生態系では、生物どうしの間にどのような関係が見られるか考える。 ・生態系において、それぞれの生物はどのようなはたらきをしているのか考える。 ・生物のからだをつくる炭素は、食物連鎖にともなって、生態系をどのように移動しているのか考える。	・実験1 微生物のはたらき	
		第2章 自然環境の調査と保全 1 身近な自然環境の調査 2 人間による活動と自然環境 3 自然環境の開発と保全	・生物と自然環境はどのようにかかわっているのか、身近な自然環境を調査して考える。 ・自然環境に人間の活動がどのような影響をあたえているのか考える。 ・自然環境を保全するためにどのような活動が行われているのか調べる。	・調査1 身近な自然環境の調査	
		第3章 科学技術と人間 1 さまざまな物質とその利用 2 エネルギー資源の利用 3 科学技術の発展	・昔と今で、変わってきた素材や製品にはどのようなものがあり、また、なぜ変わってきたのか考える。 ・今後、エネルギー資源をどう利用していけばよいか考える。 ・科学技術を利用することは、私たちの未来をどのように変えることになるか考える。	・実験2 素材となる物質の性質 ・実習1 科学技術の利用のあり方	
		自然災害と地域のかかわりを学ぶ	・自分たちの住む地域では、どのような災害が起こるおそれがあるか調べる。		
		終章 持続可能な社会をつくるために 1 地球環境と私たちの社会	・30年後の社会のために、私たちは社会にどのようにかわればよいか考える。	・実習2 30年後の社会のために現在の社会とどうかかわるか	
【学習上の留意点】 必要に応じてオリジナル演習・実験プリントを配布し、基礎力を定着させる。					

教科 音楽		科目 音楽	1.3 単位	対象学年 中学1年
【年間学習目標】 表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す。				
【評価の観点】 ・ 音楽に対する興味・関心 ・ 基礎的な表現の技能 ・ 鑑賞の能力				
【使用教材】 教科書 : 「音楽のおくりもの 中学音楽1」 「音楽のおくりもの 中学器楽」 教育出版 副教材 : 「コーラスフェスティバル」 正進社 アルトリコーダー 他				
期	月	単元名	学習内容・自己評価	備 考
一学期	4月	オリエンテーション	☐ 中学生としての音楽の授業の取り組み方について理解する。	変声期前後の生徒は、無理のない範囲で歌唱させる。
	5月	発声 校歌 合唱コンクール学年曲	☐ 声の音色や響き、音域と声の出し方との関わりについて理解する。 ☐ 音域に応じた発声、母音の発音、歌う姿勢などの技能を身に付ける。	
		リコーダー 「喜びの歌」 「オーラリー」	☐ アルトリコーダーの音色や響きを知り、奏法との関わりを理解する。 ☐ 左手のドからソまでの運指を身に付ける。	
	6月	鑑賞「魔王」	☐ 歌曲の形式の相違や特徴と歴史的背景との関わりについて理解する。 ☐ 楽曲の構成、旋律、歌詞の意味などに注目しながら、音楽の良さや美しさを味わう。	
	7月	合唱コンクール自由曲 選曲		
				期末考査あり

期	月	単元名	学習内容・自己評価	備 考
	9月	合唱コンクール自由曲 (11月中旬本番予定) リコーダー 「ロング・ロング・アゴー」 「春」 鑑賞 「春」	☐ 曲想と音楽の構造との関わりについて理解し、曲想にあった表現を工夫する。 ☐ 全体の響きを聴きながら他の声部と合わせて歌う技能を身に付ける。 ☐ 学校行事へ向けて、主体的・協同的に取り組む。 ☐ 他の声部の音を聴きながら、他者と合わせて演奏する技術を身に付ける。 ☐ 曲に合った表現をするために必要なタンギングや右手を使う運指を身に付ける。 ☐ 曲想とリトルネッロ形式やソネットとの関わりについて理解する。 ☐ 弦楽器の豊かな音色と楽曲の構成や強弱との関わりを感じながら、音楽の良さや美しさを味わう。	期末考査あり
	10月			
	11月			
	12月			
三 学 期	1月	鑑賞「展覧会の絵」	☐ 標題音楽の鑑賞から、楽器の音色や響き、全体の曲想から音楽の豊かさや多様性を感じ取る。	
	2月	歌唱・リコーダー 「蛍の光」	☐ 曲にあった表現で演奏するための息のコントロールやサミングなどの技能を身に付ける。 ☐ 他の声部の音を聴きながら、他者と合わせて演奏する技術を身に付ける。 ☐ 歌詞の内容と曲想の関わり合いを感じ、卒業式の式歌として採用されている理由について考える。	学年末考査あり
	3月			
【学習上の留意点】 年間を通じて、実技テストとは別に、楽曲で取り扱ったものを中心に音楽理論（記号や用語、楽譜のルールなど）を学び、毎学期末考査にて達成度を確認する。 歌唱や器楽の取り組みにおいては、主体的・協働的に取り組む姿勢が求められる。				

教科 音楽		科目 音楽	1 単位	対象学年 中学 2 年
【年間学習目標】 表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す。				
【評価の観点】 ・ 音楽に対する興味・関心 ・ 基礎的な表現の技能 ・ 鑑賞の能力				
【使用教材】 教科書：「音楽のおくりもの 中学音楽 2・3 上・下」「音楽のおくりもの 中学器楽」教育出版 副教材：「コーラスフェスティバル」正進社 アルトリコーダー 他				
期	月	単元名	学習内容・自己評価	備 考
一学期	4月	歌唱 「浜辺の歌」 合唱コンクール 学年曲	☐ パートの音域に応じた声の音色や響きと発声との関わりについて理解する。 ☐ 音域や強弱に応じた発声，子音や母音の発音などを身に付けている。	変声期前後の生徒は、無理のない範囲で歌唱させる。
	5月			
	6月	リコーダー	☐ 曲にあった表現で演奏するための息のコントロールやサミングなどの技能を身に付ける。 ☐ 他の声部の音を聴きながら、他者と合わせて歌唱・演奏する技術を身に付ける。	
	7月	鑑賞「歌舞伎」	☐ 歌舞伎の音楽の特徴と，その特徴から生まれる音楽の多様性について理解する。 ☐ 物語と楽曲の構成などとの関わりを感じながら、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽の良さや美しさを味わう。	
				期末考査あり

期	月	単元名	学習内容・自己評価	備 考
	9月	合唱コンクール自由曲 (11月中旬本番予定)	☐ 曲想と音楽の構造との関わりについて理解し、曲想にあった表現を工夫する。 ☐ 全体の響きを聴きながら他の声部と合わせて歌う技能を身に付ける。 ☐ 学校行事へ向けて、主体的・協同的に取り組む。	
	10月	箏「さくらさくら」	☐ 箏の音色と奏法との関わりを理解する。 ☐ 右手の使い方や縦譜の読み方などの箏の基本的な奏法を身に付ける。	
	11月		☐ 日本の音階や和楽器の音色を感じ、西洋音楽と日本音楽の共通性や固有性について考える。	
	12月	鑑賞 「ボレロ」	☐ オーケストラで使用する楽器や、楽曲の構成について理解する。 ☐ オーケストラの豊かな音色と曲想とリズムや旋律の反復による音楽の構造との関わりを感じながら、音楽の良さや美しさを味わう。	
				期末考査あり
三 学 期	1月	鑑賞 「交響曲第5番」	☐ 動機の現れ方、ソナタ形式など音楽の構造を理解する。 ☐ 楽曲の構成、リズム、強弱などの関わり合いを感じながら、音楽の良さや美しさを味わう。	
	2月	歌唱 「蛍の光」	☐ 曲にあった表現で演奏するための息のコントロールやサミングなどの技能を身に付ける。 ☐ 他の声部の音を聴きながら、他者と合わせて歌唱・演奏する技術を身に付ける。	
	3月		☐ 歌詞の内容と曲想の関わり合いを感じ、卒業式の式歌として採用されている理由について考える。	
【学習上の留意点】 年間を通じて、実技テストとは別に、楽曲で取り扱ったものを中心に音楽理論（記号や用語、楽譜のルールなど）を学び、毎学期末考査にて達成度を確認する。 歌唱や器楽の取り組みにおいては、主体的・協働的に取り組む姿勢が求められる。				

教科 音楽		科目 音楽	1 単位	対象学年 中学 3 年
【年間学習目標】 表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す。				
【評価の観点】 ・ 音楽に対する興味・関心 ・ 基礎的な表現の技能 ・ 鑑賞の能力				
【使用教材】 教科書 : 「音楽のおくりもの 中学音楽 2・3 上・下」「音楽のおくりもの 中学器楽」教育出版 副教材 : 「コーラスフェスティバル」正進社 アルトリコーダー 他				
期	月	単元名	学習内容・自己評価	備 考
一学期	4 月	歌唱 「花」 合唱コンクール 学年曲	☐ 言葉の発音と音域に応じた発声との関わりについて理解する。 ☐ 全体の響きを聴きながら他の声部と合わせて歌う技能を身に付けている。 ☐ 歌詞の内容と曲想の関わり合いを感じながら、曲にふさわしい歌唱表現を工夫する。	変声期前後の生徒は、無理のない範囲で歌唱させる。
	5 月			
	6 月	リコーダー	☐ 曲にあった表現で演奏するための息のコントロールやサミングなどの技能を身に付ける。 ☐ 他の声部の音を聴きながら、他者と合わせて歌唱・演奏する技術を身に付ける。	
	7 月	鑑賞「歌劇 アイーダ」	☐ 音楽の特徴と、物語の進行や登場人物の心情との関わりを感じながら、舞台芸術における音楽の意味や役割について考え、音楽の良さや美しさを味わう。 ☐ 舞台装置や衣装などの音楽を彩る様々な要素を知り、歌舞伎やバレエなどとの共通性や固有性を考える。	
				期末考査あり

期	月	単元名	学習内容・自己評価	備 考
	9月	合唱コンクール自由曲 (11月中旬本番予定)	☐ 曲想と音楽の構造との関わりについて理解し、曲想にあった表現を工夫する。 ☐ 全体の響きを聴きながら他の声部と合わせて歌う技能を身に付ける。 ☐ 学校行事へ向けて、主体的・協同的に取り組む。	
	10月	箏「荒城の月」	☐ 箏の音色と奏法との関わりを理解する。 ☐ 爪の使い方や押し手などの技能、縦譜の読み方などの箏の基本的な奏法を身に付ける。	
	11月		☐ 日本の音階や和楽器の音色を感じ、西洋音楽と日本音楽の共通性や固有性について考える。	
	12月	鑑賞 「民族音楽・楽器」	☐ 世界の音楽を聴き、日本にはない音階やリズムを知る。 ☐ 音楽の歴史・特徴と各国の歴史・民族性との相関性について考える。	
				期末考査あり
三 学 期	1月	鑑賞 「音楽の歴史」	☐ ルネサンス期以降の西洋音楽の特徴を、時代背景や代表的な作曲家などとの関わり考えながら理解する。	
	2月	歌唱 「旅立ちの日に」	☐ 曲にあった表現で歌唱するための発声や発音や、他の声部の音を聴きながら他者と合わせて歌唱技術を身に付ける。 ☐ 歌詞の内容と曲想の関わり合いを感じ、これまでの音楽の授業の総まとめとして、卒業式で歌唱する。	
	3月			
				期末考査あり
【学習上の留意点】 年間を通じて、実技テストとは別に、楽曲で取り扱ったものを中心に音楽理論（記号や用語、楽譜のルールなど）を学び、毎学期末考査にて達成度を確認する。 歌唱や器楽の取り組みにおいては、主体的・協働的に取り組む姿勢が求められる。				

教科 美術		科目 美術	1.3 単位	対象学年 中学 1 年
【年間学習目標】 表現及び鑑賞の幅広い活動を通して，美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに，感性を豊かにし，美術の基礎的な能力を伸ばし，美術文化についての理解を深め，豊かな情操を養う。				
【評価の観点】 ・ 決められた時間内に決められたテーマに沿った作品を完成させられたか ・ 各作品に必要な技術を習得できたか ・ オリジナリティーのあるアイデアを考え、また作品に活かしたか ・ 自分の作品を客観的視点で見て、改善・工夫ができたか				
【使用教材】 教科書 ：「美術 1」 光村図書				
期	月	単元名	学習内容・自己評価	備 考
一 学 期	4 月	オリエンテーション	☐ カッターの扱いと鉛筆の削り方、鉛筆による作図を学ぶ。	
	5 月	色彩演習と作図 (色相環作成)	☐ 定規やコンパスを使用し正確な図形を描く練習をする ☐ 色の三原色、対比など色についての基本を学習する ☐ 色相環を作成する。実際に絵の具を混色することにより色の特性や成り立ちを理解する	
	6 月	消しゴムはんこ	☐ アクリル絵の具の特性や使い方を学ぶ ☐ 消しゴムではんこを作り作品のサインとすることで自分の作品への責任を意識させる ☐ 彫刻刀の扱いになれる ☐ はんこを作ることで反転するなどの特性を理解する	
	7 月			
				期末考査あり

期	月	単元名	学習内容・自己評価	備 考
	9月	風景画 (鉛筆によるデッサンとアクリル絵の具による着彩)	下絵 ☐ 風景（建築物や木などの自然物）をよく見て作品に活かすことで観察する目を養う ☐ 遠近感の表現など正確な形をとる方法を学ぶ	期末考查あり
	10月		着彩 ☐ より良くするために画面を構成したり混色したりするなどの工夫をする	
	11月		☐ 訂正・加筆箇所に気づけるよう自分の作品をよく観察する	
	12月		☐ こだわる箇所を作り自分なりの表現を探す ☐ 画材、絵の具等についての講義により作品への理解を深める	
三学期	1月	文字で伝える書体について	導入・アイデアスケッチ ☐ 書体やタイポグラフィについて学ぶ ☐ 任意の文字を決めその文字と文字からイメージする色や形を構成し作品を作る ☐ 文字からイメージを展開させる	期末考查あり
	2月	ポップアップカード（レタリング）	下絵・着彩 ☐ 配置や形、大きさなどを変えて下絵を練り構成力を身につける ☐ 選んだ文字について調べ学習を行い知識を深める ☐ 鑑賞者に伝えることを意識し客観的な目を養う ☐ カッターやはさみなど刃物の扱いを学ぶ ☐ 送る相手を想定し作ることによって相手に伝わる表現を模索する ☐ 飛び出す部分や動く部分を工夫し構造を考えて作品に活かす	
	3月	☐ アイデアを実現し完成度をあげるための画材を選ぶ ☐ 色彩・装飾の工夫 ☐ 定期考查で知識の定着をはかる		
【学習上の留意点】 年間を通じて、作品制作とは別に、美術史や美術理論を学び、毎学期末考查にて達成度を確認する。 作品制作への取り組みにおいては、主体的に取り組む姿勢が求められる。				

教科 美術		科目 美術	1 単位	対象学年 中学 2 年
【年間学習目標】 表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。				
【評価の観点】 ・ 決められた時間内に決められたテーマに沿った作品を完成させられたか ・ 1 年時に学んだ色彩や構成力、また新たに 2 年で学んだ技術を活かした作品を作る事ができたか ・ オリジナリティーのあるアイデアを考え、また作品に活かせたか ・ 自分の作品を客観的視点で見て、改善・工夫ができたか				
【使用教材】 教科書 :「美術 2・3」 光村図書				
期	月	単元名	学習内容・自己評価	備 考
一 学 期	4 月	粘土のお面作り 想像の動物になる	☐ お面の特性（目的や特色、地域差など）を学習する ☐ 豊かにイメージを膨らませ、想像の動物を細部まで想定する	
	5 月		☐ 粘土の特性を理解する ☐ 平面的な芯材から立体的な作品にするために粘土の付け方を工夫する。	
	6 月		☐ 多方向から観察し立体として作品を成立させる ☐ 彫刻刀やカッターを使ってマイナス作業（削る）による効果を理解する	
	7 月		☐ ニスによる効果と特性の理解 ☐ ・定期考査で知識の定着をはかる	
				期末考査あり

期	月	単元名	学習内容・自己評価	備 考
	9月	木版画（風景）	☐ 版画の特性、種類、歴史、生活の中での活用などを学ぶ ☐ 版木の着彩（彫るとき見やすいように） ☐ 場所を決めデッサンをしたのち、版画作品にするために構成し下図をおこす ☐ 下図を版木に転写する	
	10月			
	11月			
	12月			
				期末考查あり
三学期	1月	鉛筆デッサン・細密描写（鳥の剥製）	☐ 教科書と過去の作品鑑賞 ☐ 鉛筆や練り消しの使い方、形の取り方の説明 ☐ 透視図法やルネサンスについての学習	
	2月			
	3月			
				期末考查あり
【学習上の留意点】 年間を通じて、作品制作とは別に、美術史や美術理論を学び、毎学期末考查にて達成度を確認する。 作品制作への取り組みにおいては、主体的に取り組む姿勢が求められる。				

教科	美術	科目	美術	1 単位	対象学年	中学 3 年
【年間学習目標】						
表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。						
【評価の観点】						
・ 決められた時間内に決められたテーマに沿った作品を完成させられたか ・ これまで学んだ技術を活かし、展開させた作品を作る事ができたか ・ オリジナリティーのあるアイデアを考え、また作品に活かせたか ・ 自分の作品を客観的視点を見て、改善・工夫ができたか ・ 中学校 3 年間の集大成としての作品を作る事ができたか						
【使用教材】						
教科書　：「美術 2・3」 光村図書						
期	月	単元名	学習内容・自己評価			備　考
一 学 期	4 月	篆刻でエクスリブリスを作る（印面）と持ち手制作（石彫）	☐ 篆刻の使われ方、作品例、エクスリブリスについて学ぶ。			
	5 月		☐ 反転することとエクスリブリスの特徴を考慮したデザインを考える、また持ち手のデザインと印面を連動させる ☐ 赤と白のバランスを考えてデザインする			
			6 月	☐ 印面を磨き、下図を転写する ☐ 篆刻刀の扱いと石の削り方を学ぶ ☐ 文字や模様が美しく押印されるように丁寧に彫る ☐ 試し押しをし、調整する		
	7 月			☐ 持ち手は立体の石彫作品として成立するように作る ☐ 鉄ヤスリや削り出し紙ヤスリで表面を整え美しく、また使いやすくする		
						期末考査あり

期	月	単元名	学習内容・自己評価	備 考	
	9月	・ 自画像(漫画・デフォルメ) ・ 木彫(時計・卒業制作)	☐ 北斎漫画や浮世絵など現在の漫画・アニメに通じる表現を学ぶ	期末考查あり	
	10月		☐ 自分の顔を観察しながら特徴をつかみデフォルメしたり、省略するなど漫画の特性を活かした作品を作る		
			11月		☐ 中学3年間の集大成としての卒業制作を作るにあたっての心構え
					☐ 浮き彫り等の技法や伝統工芸に対する理解
	12月		☐ 機能性を考慮し、かつオリジナリティーのあるデザインを考える		
☐ デザインによりのこぎりや電ノコを使いカット・切り抜きをする					
三学期	1月	☐ 彫刻刀で彫り進める。立体的な表現を意識し深く彫る	期末考查あり		
	2月	☐ 鉄ヤスリで形を整え、紙ヤスリで表面を磨いて美しい仕上げを目指す			
		☐ テーマとデザインに合った色使いで着彩する			
	3月	☐ ニスを塗りつやを出し完成度をあげる	期末考查あり		
【学習上の留意点】 年間を通じて、作品制作とは別に、美術史や美術理論を学び、毎学期末考查にて達成度を確認する。 作品制作への取り組みにおいては、主体的に取り組む姿勢が求められる。					

教科	保健体育	科目	体育・保健	各学年	3単位	対象学年	中学1・2・3年
【学習目標】 ・さまざまな運動の実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わうとともに、体力の向上と健康の保持増進を図る。 ・競争や協同の経験を通して、自己の最善を尽くす、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たすなどの姿勢や態度を身につける。 ・健康や安全に関する知識を深め、日常生活において適切に健康を管理していく姿勢や態度を身につける。							
【評価の観点】 ・出席状況、授業への取り組み姿勢、実技テスト、定期考査、ノート提出等を総合的に判断して評価する。 ・評価・評定：学期ごとに5段階で評価する。学年末を5段階評定とする。							
【使用教材】 ・保健体育（大修館）、ステップアップ中学体育（大修館）							
【学習内容】 ・3年間の学習内容（種目）は以下の一覧表を参照。 ・体育施設等の都合により、時期と種目が入れ替わることもある。							
【学習上の留意点】 ・体調の確認、授業におけるポイントや注意点を確認する。 ・体育委員による挨拶、出欠確認、準備運動や補助運動を行う。 ・安全性を重視する。怪我の防止という観点から準備体操は十分に行う。 ・施設の正しい利用や用具の管理、運動場の環境整備などにも気を配る。 ・学校指定の体操服を着用する。衛生面にも配慮し、体操服は清潔にしておく。 ・各自の持ち物は、しっかり管理するとともに整理整頓を心がける。							

学年	学期		1 学期（ 3 9 時間）													2 学期（ 4 2 時間）												3 学期（ 2 4 時間）																		
	月		4			5			6			7				9			10				11				12			1			2			3										
	週		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35									
1 年	2	男子	集団 行 動	体 理 2 時 間	保 健 2 時 間	体づくり運動 スポーツテ スト 8 時間			陸上競技 1 1 0 時間					保 健 2 時 間	保 健 2 時 間	バレーボール 1 1 2 時間					剣道 1 1 2 時間					保 健 2 時 間	保 健 2 時 間	ソフトボール 1 1 2 時間					保 健 2 時 間													
	2	女子														ソフトボール 1 1 2 時間					ダンス 1 1 2 時間							バレーボール 1 1 2 時間																		
	1	男子														体づくり運動 スポーツテ スト 4 時間			器械体操 1 7 時間					体 理 1 時 間	保 健 1 時 間			サッカー 1 1 2 時間										保 健 1 時 間	保 健 1 時 間	ダンス 1 6 時間					保 健 1 時 間	
	1	女子																										バスケットボール 1 1 2 時間												剣道 1 6 時間						
2 年	2	男子	集団 行 動 2 時間	体 理 2 時 間	保 健 2 時 間	体づくり運動 スポーツテ スト 8 時間			陸上競技 2 1 0 時間					保 健 2 時 間	保 健 2 時 間	ニス 1 1 2 時					剣道 2 1 2 時間					保 健 2 時 間	保 健 2 時 間	ソフトボール 2 1 2 時間					保 健 2 時 間													
	2	女子														ソフトボール 2 1 2 時間					ダンス 2 1 2 時間							テニス 1 1 2 時間																		
	1	男子														体づくり運動 スポーツテ スト 7 時間			器械体操 2 5 時間					体 理 1 時 間	保 健 1 時 間			バスケットボール 1 1 2 時間										保 健 1 時 間	保 健 1 時 間	ダンス 1 6 時間					保 健 1 時 間	
	1	女子																										ハンドボール 1 1 2 時間												剣道 1 6 時間						
3 年	2	男子	集団 行 動 2 時間	体 理 2 時 間	保 健 2 時 間	体づくり運 動 スポー ツテスト 8 時間			陸上競技 3 1 0 時間					保 健 2 時 間	保 健 2 時 間	バレーボール 2 1 2 時間					テニス 2 1 2 時間					保 健 2 時 間	保 健 2 時 間	サッカー 2 1 2 時間					保 健 2 時 間													
	2	女子														バレーボール 2 1 2 時間					ダンス 3 1 2 時間							バスケットボール 2 1 2 時間																		
	1	男子														体づくり運動 スポーツテ スト 4 時間			卓球 1 8 時間					体 理 1 時 間	保 健 1 時 間			バスケットボール 2 1 2 時間						保 健 1 時 間	保 健 1 時 間	保 健 1 時 間	ハンドボール 1 8 時間									
	1	女子																										ハンドボール 2 8 時間									サッカー 2 1 2 時間					卓球 1 8 時間				

保健・体育理論

男 女	保 健	体育理論
1 年生	調和のとれた生活 心身の発達と心の健康	運動やスポーツの多様性
2 年生	生活習慣の健康への影響 けがの防止と応急手当	運動やスポーツの効果・学び方・安全
3 年生	感染症の予防と健康を守る社会の取り組み 環境の健康への影響	文化としてのスポーツ

体育実技

男 女	学習内容	ねらい
集団行動	・ 集団行動（姿勢、集合、整列、方向転換、列の増減、行進など）	集団として秩序正しく行動ができるよう行動の決まりや約束を学ぶ。
体づくり運動	・ 体ほぐしの運動・体力を高める運動	体を動かす楽しさや心地よさを味わい、健康の保持増進や体力の向上を図る。
体育祭練習	・ 集団種目・対抗リレー	フェアな心、仲間との協力、最善を尽くす努力の大切さを学ぶ。

男 子	学習内容	ねらい
陸上競技	・ 走運動（長距離走・短距離走・リレー・ハードル走） ・ 跳運動（走り高とび・走り幅とび）	自己の技能や体力を最大限に発揮し、タイム・記録の向上を目指す。
サッカー	・ ボールフィーリング ・パス・ドリブル・シュート ・ 1対1、少人数のスモールサイドゲーム ・ オールコートゲーム	サッカーの個人的技能（パス、ドリブル、シュート）を習得し、ゲームに生かせるようにする。ルールを守り、勝敗に対して公平な態度がとれるようにする。
テニス	・ グランドストローク（フォアハンド・バックハンド） ・ サービス ・ ボレー ・ ゲーム（シングルス・ダブルス）	基礎技能（サービスや各種ストローク）を習得し、ゲームで活かせるようにする。また、ダブルスでは、連携プレーを身につけ協力してゲームを行えるようにする。
バスケットボール	・ ドリブル（左右・ドリブルチェンジ・スピードドリブル） ・ パス ・ シュート（フリースロー・3P） ・ ゲーム	基本的な技術、ルールを覚えるとともに、仲間と協力して行うチームプレーなどをする楽しさや難しさを知り、個人技ではないチームでのオフェンス・ディフェンスを通してバスケットボールに関する理解を深める。
バレーボール	・ パス（オーバーハンドパス、アンダーハンドパス） ・ サーブ（アンダーハンド・フローター） ・ スパイク	基礎技術を習得し、レシーブ・トス・スパイクなどを用いてゲームを行えるようにする。
器械運動	マット運動（前転・後転・開脚前転・開脚後転・伸膝前転・伸膝後転・とび前転・肩倒立・カエル倒立・三点倒立・倒立・倒立前転・側方倒立回転・前方倒立回転とび）	課題を解決することで技を身につける。また、技がよりよくできるように、練習方法などを工夫して取り組むことができる。互いに協力して器具の準備や点検を行い、安全に留意して練習することができるようにする。

ソフトボール	・キャッチボール（至近距離、遠投、ゴロ、フライ） ・バッティング（素振り、ペッパー、バント、フリー） ・試合形式の練習 ・チーム別での課題練習	基本的技術を身につけるとともに、公正な態度やマナー、ルールや審判の仕方を覚え生徒同士で試合を行うことが出来るようにする。
剣 道	・礼法(立礼, 正座) ・竹刀の持ち方（構え, 足さばき）, 防具のつけ方 ・素振り, 打突（面, 小手, 胴） ・自由練習（試合形式練習） ・試合	礼儀正しい態度, 姿勢を身に付ける。安全に気をつけて, 正しい素振り, 打突を習得させ試合を行うことが出来るようにする。
ダンス	・現代的なリズムダンス ・発表会	リズムの特徴を捉え変化のある動きを組み合わせ、全身で自由に踊る。

女 子	学習内容	ねらい
陸上競技	・ 走運動（長距離走, 短距離走, リレー, ハードル走） ・ 跳運動（走り高とび, 走り幅とび）	自己の技能や体力を最大限に発揮し、タイム・記録の向上を目指す。
ハンドボール	・ボールハンドリング・対人パス ・ドリブル練習・シュート練習 ・ミニゲーム形式の攻防練習 ・ゲーム	点や時計などゲームの運営を自分達で行いルールを覚えながら楽しくゲームを行う。個人的技能：パス・ドリブル・シュート・ゴールキーピングといった基本的動作を身につける。集団的技能：ゲームを行うために攻防の仕方を工夫しながら練習を行う。
バスケットボール	・ボールハンドリング・対人パス・ドリブル練習 ・ドリブルシュート・レイアップシュート ・ジャンプシュート ・ゲーム	ゲーム：得点や時計などゲームの運営を自分達で行いルールを覚えながら楽しくゲームを行う。個人的技能：パス・ドリブル・シュートといった基本的動作を身につける。集団的技能：ゲームを行うために攻防の仕方を工夫しながら練習を行う。
サッカー	・ボールフィーリング ・ドリブル, パス, シュート ・少人数によるスモールサイドゲーム ・オールコートでのゲーム	サッカーの個人技能（ドリブル, パス, シュート）を習得し, ゲームに活かせるようにする。ルールを守り, 勝敗に対して公平な態度がとれるようにする。
テニス	・グランドストローク（フォアハンド, バックハンド） ・サービス ・ボレー ・ゲーム（シングルのダブルス）	基礎技能（サービスや各種ストローク）を習得し, ゲームで生かせるようにする。また, ダブルスでは, 連携プレーを身につけ協力してゲームを行えるようにする。
器械運動	マット運動 (前転・後転・開脚前転・開脚後転・伸膝前転・伸膝後転・とび前転・肩倒立・カエル倒立・三点倒立・倒立・倒立前転)	新たな課題を解決するなど新しい技を身につけ, 技がよりよくできるように練習方法や場を工夫して取り組むことができる。
ソフトボール	・ボール慣れ（ボールの持ち方, グローブの使い方） ・キャッチボール（投げ方, 捕り方, 至近距離、遠投） ・バッティング（構え方, 素振り, トス） ・試合形式の練習	基本的技術を身につけるとともに、公正な態度やマナー、ルールや審判の仕方を覚え生徒同士で試合が進めることが出来るようにする。
バレーボール	・パスの技術（オーバーハンドパス, アンダーハンドパス） ・サーブ技術, スパイク, レシーブ ・ゲーム	バレーボールのルールを理解するとともに、基本的技術を身につけ、試合が行えるようにする。
ダンス	・テーマ決め ・個人のモチーフ, 動きづくり ・発表	「創る」「表現する」体験が心を豊かに、そして個性を育てる。 クラスの仲間との協調性を高める。

剣 道	・ 礼法, (立礼, 正座) ・ 竹刀の持ち方 (構え, 足さばき), 素振り, 打突	礼儀正しい態度を身につける。安全に気をつけて素振り, 打突の技術を身につける。
-----	---	---

教科 技術・家庭	科目 技術・家庭	2 単位	対象学年	中学 1 年
【年間学習目標】 技術分野 - 情報の技術の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な活動を通して、生活や社会で利用されている情報の技術についての基礎的な理解を図り、それらに係る技能を身に付け、情報の技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。 - 生活や社会の中から情報の技術に関わる問題を見いだして課題を設定し解決する力、よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、適切に情報の技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成する。 家庭分野 - 生活に必要な基礎的・基本的な知識および技術を習得する - 生活の中から進んで課題を見出し、解決しようとする力を身につける				
【評価の観点】 主に実技、授業、課題、作品の提出状況、定期考査、授業に対する取り組み状況などを総合的に評価する。				
【使用教材】 教科書：新しい技術・家庭 技術分野 家庭分野（東京書籍） 副教材：技術・家庭総合ノート 家庭分野（明治図書）				

技術分野

期	月	単元名	学習内容・自己評価	備 考
一学期	4月	ガイダンス	☐ 3年間の技術の学習内容を理解することができる。 ☐ 小学校の学習を振り返り、関連性について理解できる。	
	5月	コンピュータの仕組みと基本操作	☐ コンピュータを使うときの注意事項を理解することができる。 ☐ コンピュータを構成する装置の名称やはたらきを調べることができる。 ☐ 自分の利用目的にあったコンピュータの構成を考えることができる。	
	6月		☐ シフトキーやカナキーを使い分け、文字を正しく入力することができる。 ☐ 同じ操作にも複数の方法があることを知り、自分に合った方法を選択することができる。	
	7月	情報通信ネットワークの利用	☐ Web ページの構造を調べることができる。 ☐ Web ページが表示されているしくみを理解できる。 ☐ 知りたい情報を効率よく検索する方法を考えることができる。 ☐ 検索エンジンのしくみを理解している。 ☐ 電子メールアドレスのしくみを理解できる。 ☐ 電子メールを利用するときの正しい使い方を身に付けることができる。 ☐ 情報モラルの重要性を理解している。 ☐ 情報伝達のルールやマナーを守って、情報通信ネットワークを利用できる。	期末考査

期	月	単元名	学習内容・自己評価	備 考
二 学 期	8 月	コンピュータの利用①	☐ マルチメディア作品を制作する手順を考 えることができる。 ☐ 素材を活用するときの注意点を理解して いる。 ☐ 素材を工夫して、伝えたい情報を効果的 に表現することができる。 ☐ 素材を組み合わせ、マルチメディア作品 を完成させることができる。 ☐ 自分のマルチメディア作品について評価 するポイントをまとめることができる。 ☐ 作品を見やすく、わかりやすいように表 現を工夫できる。	
	9 月			
	10 月			
		コンピュータの利用②	☐ コンピュータを利用した情報処理手順に ついて調べることができる。 ☐ 応用ソフトウェアの種類や活用方法を理 解できる。 ☐ 目的に応じた応用ソフトウェアを選択で きる。 ☐ 表計算処理ソフトウェアの機能を理解で きる。 ☐ グラフの種類や用途について理解し、適 切に活用することができる。 ☐ 文章処理ソフトウェアの機能を理解でき る。 ☐ データベース処理ソフトウェア意の機能 を理解できる。 ☐ 身の回りで、どのようなデータベースが 活用されているか理解している。	期末考査
	11 月			
12 月				
三 学 期	1 月	プログラミングと計測・ 制御	☐ プログラムの働きを理解できる。 ☐ 目的の仕事させるプログラムの手順を 理解できる。 ☐ 身の回りの機器の多くがプログラムによ って動作していることを理解できる。	
	2 月	情報社会と自己責任	☐ 生活や産業の中で情報が果たしている役 割を調べることができる。 ☐ 情報社会人として、ルールやモラルを守 り、責任ある行動を取ることができる。	期末考査
	3 月			
【学習上の留意点】 ・ 学習状況に応じて、予定進度等を変更することがあります。				

家庭分野

期	月	単元名	学習内容・自己評価	備 考
一学期	4月	ガイダンス 年中行事	☐ 家庭分野でどのようなことを学び、どのような力をつけるのかを知り、これから3年間の見通しをもつ。 ☐ 日本の伝統的な年中行事を調べ、継承していくことの重要性を考えさせる。	被服実習① 「山の幸染めファイルカバー」 期末考查
	5月	第5編 私たちの成長と家族・地域 1章 家族・家庭と地域	☐ 家庭や家族の基本的な機能を理解する。 ☐ 家庭生活が地域とのつながりの中で成り立っていることを理解、かかわり方について考える。	
	6月	①私たちの生活と家族・家庭の機能 ②中学生としての自立 ③家庭生活と地域の関わり	☐ 幼少期を振り返るとともに、これからの将来について考える。 ☐ 暮らしを支える施設やサービスについて調べさせ、考えさせる。 ☐ 地域行事としてどのようなものがあり、行われているかを調べさせ、考え、実行できるか、考えさせる。	
	7月		☐ 家庭の仕事のひとつである家事より、アイロンのかけ方を習得する。 (アイロンを使った作品を作る。)	
	8月			
二学期	9月	被服実習の基礎	☐ 被服製作の基礎技能を習得すると共に、日本の伝統文化の刺し子について学ぶ。 ☐ 基本的な縫い方を身につける。 ①しるし付け、裁断 ②並縫い、本返し縫い ③玉止め、玉結び ④ボタン付け ☐ 材料、製作手順、作業時間などを見通して、計画的に作業を進める。	被服実習② 「ティッシュボックスカバー」 調理実習 「郷土料理」 DVD 「日本の住居」 「住生活の伝統と文化～世界の住居とくらしを見てみよう～」 「安全な住居～防災・防犯編～」 期末考查 茶道実習
	10月	第3編 私たちの住生活	☐ DVDなどの視聴覚教材を用いて日本の住宅、世界の住宅に関心を持たせる。	
	11月	① もしも住まいがなかったら	☐ 家族の住空間について考え、住居の基本的な機能について学ぶ。	
	12月	② 住まいと気候風土の関わり ③ 健康で快適な室内環境	☐ 安全、健康的な住まい方の工夫を考える。 ☐ 日本の住宅(和室)、畳の式方を学習する。	

期	月	単元名	学習内容・自己評価	備 考
三 学 期	1 月		□ 家族がどのような生活を重視するかで住まい方が異なることを知る。	期末考查
	2 月			
	3 月			
【学習上の留意点】				
・ 学習状況に応じて、予定進度の変更、調理・茶道等の実習の実施時期の変更や社会情勢に応じて実施を見直す場合があります。				

教科 技術・家庭	科目 技術・家庭	2 単位	対象学年 中学 2 年
【年間学習目標】 技術分野 - 生活や社会で利用されている材料，加工，生物育成，エネルギー変換の技術についての基礎的な理解を図るとともに，それらに係る技能を身に付け，技術と生活や社会，環境との関わりについて理解を深める。 - 生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，製作図等に表現し，試作等を通じて具体化し，実践を評価・改善するなど，課題を解決する力を養う。 家庭分野 - 生活に必要な基礎的・基本的な知識および技術を習得する - 生活の中から進んで課題を見出し，解決しようとする力を身につける			
【評価の観点】 主に実技、授業、課題、作品の提出状況、定期考査、授業に対する取り組み状況などを総合的に評価する。			
【使用教材】 教科書：新しい技術・家庭 技術分野 家庭分野（東京書籍） 副教材：技術・家庭総合ノート 家庭分野（明治図書）			

技術分野

期	月	単元名	学習内容・自己評価	備 考
一学期	4 月	技術と私たちの生活	☐ 技術の発達により生活がどのように変化してきたかを理解できる。 ☐ 利用するエネルギーの変化と技術の発達の関係について考えることができる。	
	5 月	製品の設計①	☐ 身の回りの製品について、材料、つくり方、工夫などを調べることができる。 ☐ 材料の特性について理解することができる。 ☐ 技術室にある工具や機器の種類や用途を調べることができる。 ☐ 安全に作業するための「きまり」を理解できる。	
	6 月	製品の設計②	☐ 使用目的や使用条件に合った作りたい製品を構想することができる。 ☐ 作りたい製品に適した材料を選ぶことができる。 ☐ 製品を丈夫にする方法を知り、作りたい作品に生かすことができる。	
	7 月		☐ 使用する場所、使いやすさ、全体の大きさや形などを検討することができる。 ☐ 作りたい製品の構想をまとめ、製作に必要な図を書くことができる。	期末考査

期	月	単元名	学習内容・自己評価	備 考
二 学 期	8 月			
	9 月	製品の製作	☐ 製作に必要な部品表、製作工程表を作成できる。	期末考査
			☐ 切断に用いる工具の名称と切断の仕組みを理解できる。	
	10 月		☐ 材料に適した工具や機器を選び、安全に正しく使用し、正確に切断することができる。	
			☐ 部品加工に用いる工具や機器を選び、安全に正しく使用し、正確に加工することができる。	
	11 月		☐ 自分の製品の接合方法に適した接合材料や工具を選び、安全に正しく使用し、正確に接合することができる。	
	12 月		☐ 自分の製品に適した仕上げ方法を決定し、美しく仕上げることができる。	
三 学 期	1 月	技術とものづくりの未来	☐ 技術の発達と豊かな社会生活について考えることができる。	期末考査
			☐ 循環型社会を進めるための社会や制度を知り、これからの技術と自分の生活について考えることができる。	
	2 月			
	3 月			
【学習上の留意点】				
・ 学習状況に応じて、予定進捗等を変更することがあります。				

家庭分野

期	月	単元名	学習内容・自己評価	備 考
一学期	4 月	2 編．私たちの衣生活	☐ 自立した衣生活を考える。DVD などの視聴覚教材を通して衣服への興味を深める。 ☐ 衣服と社会生活の関わりや、T．P．O．に合わせた着用のしかたを理解する。 ☐ 日本の衣文化への理解を深める。 ☐ 衣服の入手、取り扱い絵表示やサイズ表示について理解する。	DVD 「日本と世界の衣服～見て楽しむ世界の衣服～」 被服実習① 「巾着袋」 期末考査
	5 月			
	6 月			
	7 月			
二学期	8 月			
	9 月	2 編．私たちの衣生活 4 編．私たちの消費生活と環境	☐ 1 学期の続き、衣生活について学ぶ。 ☐ 消費者としての自覚を持ち、多くの消費行動に気づき、契約について理解する。 ☐ 消費者トラブルとその対策について理解し、防いだり、解決したりする方法を考える。 ☐ 省エネルギーと持続可能な社会・持続可能な消費生活を考えさせ、工夫させる。	調理実習 「エコクッキング」 DVD 「消費生活・環境を見つめる」 期末考査 茶道実習 DVD 「お茶で豊かな心を」
	10 月			
	11 月			
	12 月			
三学期	1 月	4 編．私たちの消費生活と環境	☐ 2 学期の続きから学ぶ。 ☐ SDGs への関心を高め、視覚教材を用いて現代の問題へ目を向け、考える。	被服実習② 「エコたわし」 期末考査
	2 月			
	3 月			
【学習上の留意点】 学習状況に応じて、予定進度の変更、調理・茶道等の実習の実施時期の変更や社会情勢に応じて実施を見直す場合があります。				

教科 技術・家庭 科目 技術・家庭	1 単位	対象学年	中学 3 年	(隔週で実施)
【年間学習目標】 技術分野 ・ 生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。 ・ よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。 家庭分野 ・ 生活に必要な基礎的・基本的な知識および技術を習得する ・ 生活の中から進んで課題を見出し、解決しようとする力を身につける				
【評価の観点】 ・ 主に実技、授業、課題、作品の提出状況、定期考査、授業に対する取り組み状況などを総合的に評価する。				
【使用教材】 教科書 : 新しい技術・家庭 技術分野 家庭分野 (東京書籍) 副教材 : 技術・家庭総合ノート 技術分野 家庭分野 (明治図書)				

技術分野

期	月	単元名	学習内容・自己評価	備 考
一学期	4 月	製品の製作	☐ 製作に必要な部品表、製作工程表を作成できる。 ☐ 切断に用いる工具の名称と切断の仕組みを理解できる。 ☐ 材料に適した工具や機器を選び、安全に正しく使用し、正確に切断することができる。 ☐ 部品加工に用いる工具や機器を選び、安全に正しく使用し、正確に加工することができる。 ☐ 自分の製品の接合方法に適した接合材料や工具を選び、安全に正しく使用し、正確に接合することができる。 ☐ 自分の製品に適した仕上げ方法を決定し、美しく仕上げることができる。	期末考査
	5 月			
	6 月			
	7 月			
二学期	8 月			
	9 月	エネルギーの変換と利用	☐ 電気をつくる方法を考え、発電をすることができる。 ☐ 電気エネルギーを熱・光・動力に変換する仕組みを理解できる。	期末考査
	10 月			
	11 月			
	12 月			
三学期	1 月	技術とものづくりの未来	☐ 技術の発達と豊かな社会生活について考えることができる。 ☐ 循環型社会を進めるための社会や制度を知り、これからの技術と自分の生活について考えることができる。	期末考査
	2 月			
	3 月			
【学習上の留意点】 ・学習状況に応じて、予定進度等を変更することがあります。				

家庭分野

期	月	単元名	学習内容・自己評価	備 考
一学期	4 月	5 編. 私たちの成長と家族・地域	☐ 幼児の心身の発達、生活の特徴を学習する。 ☐ 幼児にとっての遊びの重要性を知る。 ☐ 作品制作として色紙に手形を取り今までの成長を振り返る。 ☐ ビデオを通して、幼児について観察し、適切な関わり方を考える。 ☐ 幼児の心身の発達や家族の役割について理解する。	被服実習 「手形アート」
	5 月			DVD 「子どもの成長」
	6 月			
	7 月			期末考査
二学期	8 月			
	9 月	1 編. 私たちの食生活	☐ 食生活を考える。中学生の食事の取り方を考える。 ☐ 栄養素の種類とはたらき、食品成分表を使って調べる。生鮮食品と加工食品の表示や意味を理解する。 ☐ 中学生の 1 日分の献立を考え、調理のための適切な食品選択できるよう、食品の特徴を学ぶ。 ☐ 調理の基礎を理解する。 ☐ 地域の食材、食文化について興味を持って学習する。	調理実習 「基礎調理」
	10 月			
	11 月			
	12 月			期末考査
三学期	1 月	1 編. 私たちの食生活	☐ 2 学期の続き ☐ 3 年間の総まとめとして、中学で学習した基本の縫い方を復習し、作品を完成させる。	被服実習② 「箸入れ」
	2 月			
	3 月			期末考査

【学習上の留意点】

学習状況に応じて、予定進度の変更、調理・茶道等の実習の実施時期の変更や社会情勢に応じて実施を見直す場合があります。

教科	外国語	科目	英語	5 単位	対象学年	中学 1 年
【年間学習目標】						
- 英語に興味を持ち、「読む・書く・聞く・話す」の4技能を中心に、楽しみながら学習に取り組む。 - 実際の場面を想定してコミュニケーション活動を行う。 - 家庭学習（復習・宿題）の習慣を確立する。 - 基本単語・基本的文法事項を習得する。 - 英検：現在所持級(レベル)の1つ上を目指す。英検 5 級以上全員取得。						
【評価の観点】						
- 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解している。外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身につけている。（知識・技能） - コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりしている。（思考・判断・表現） - 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。（主体的に学習に取り組む態度）						
【使用教材】						
主教材：NEW HORIZON English Course 1【検定教科書】、Smile English 1【教科書準拠問題集】						
副教材：						
Listening		ニューリスニングプラス(初級)		Weblio オンライン英会話		Weblio Study オリジナルアクティビティ
Speaking		ALT オリジナルワークシート		GCP (グローバルコンピテンスプログラム)		
Reading		e ステーション【洋書多読】、オリジナル問題集（冊子）				
Writing		ウィニング英語 1 (Grammar)、ターゲット 1800 (Vocabulary)				
期	考查	単元名		学習内容・自己評価		備 考
一学期	中間 考 査	<Unit 0> 小学校の振り返り <Unit 1> 自分がふだんよくすることや できることを伝える <Unit 2> 身近な人やものについて 紹介したり、たずねたりする		<Unit 1> ☐ I am Margaret Brown. ☐ Do you play cricket? – Yes, I do. ☐ I can read hiragana. <Unit 2> ☐ He is in class 1B. ☐ What is this? It's the symbol for school. ☐ What do you have for breakfast?		楽しみながら英語を学び、 口頭練習に励む。 動詞の違いを理解し、適切 な動詞の使い方を理解す る。 家庭学習の方法を学ぶ。
	期末 考 査	<Unit 3> いつ・どこなのかをたずねたり、 数をたずねたりする <Unit 4> 相手に指示したり、時刻や 好きなものをたずねたりする <Unit 5> 行った場所や、そこで楽しんだ ことなどについて話す		<Unit 3> ☐ Where do you practice? ☐ I want to win the game. ☐ How many rackets do you have? <Unit 4> ☐ Come to the front. ☐ What time is it? ☐ What sport do you like? <Unit 5> ☐ Look at the people on the stage. ☐ I like dancing. ☐ I went to the summer festival yesterday.		動詞の形や時制の違いに 注意し、適切な動詞の使い 方を理解する。 英和辞典の使用法を学び、 使い、慣れる。 家庭学習の方法を確立 する。

期	考查	単元名	学習内容・自己評価	備 考
二 学 期	中 間 考 査	<Unit 6> 自分と相手以外の人やものなどについて、たずねたり伝えたりする <Unit 7> 自分と相手以外の人について話したり、どちらなのか、だれのものかをたずねたりする	< Unit 6> ☐ Takuya lives in Cebu. ☐ Does Takuya like Filipino food? Yes, he does. ☐ Takuya does not write a blog. < Unit 7> ☐ Do you know him? ☐ Whose ticket is this? It is mine. ☐ Which does she speak, English or Japanese?	3人称単数の動詞の変化に注意しながら英語を学び、練習する。 疑問詞の意味、使い方を理解し、練習する。
	期 末 考 査	<Unit 8> 今していることについて説明したり、たずねたりする <Unit 9> したいことや、する必要のあることなどについて説明したり、たずねたりする	< Unit 8> ☐ I am watching TV now. ☐ Are you taking a picture? Yes, I am. ☐ What are you doing? ☐ What a cute bag! <Unit 9> ☐ She tries to do her best. ☐ What do you want to do? ☐ The children look happy.	動詞の変化(現在進行形など)に注意しながら学び、練習する。 助動詞の働きや適切な使い方を学び、練習する。
三 学 期	期 末 考 査	<Unit 10> 過去の出来事について説明したり、たずねたりする <Unit 11> 過去の状態や気持ち、過去のある時点にしていたことについて説明する 1年間の総復習	<Unit 10> ☐ I visited the museum last Sunday. ☐ I saw fireworks that night. ☐ Did you get up early yesterday? Yes, I did. / No, I did not. < Unit 11> ☐ Were you a starter in the last game? Yes, I was. / No, I was not. ☐ Is there a campground near the lake? Yes, there is. / No, there is not. ☐ I was playing soccer then.	時制の変化をあらわす表現に注意しながら学び、練習する。

【学習上の留意点】

英語授業（5単位）の内訳等

名 称	単位数	主な教材	担当者	クラス
英 語	4	New Horizon など	JET 《日本人英語教師》	2クラス3分割
GCP(グローバルコンピテンスプログラム)	0.5	GCP オリジナルテキスト	Teacher 《GCP》, ALT, JET	HR クラス単位
オンライン英会話+Weblio Study	0.5	Weblio オリジナルテキスト	Teacher 《フィリピン人》, ALT, JET	1クラス2分割

*総合学習として

英会話	1	オリジナルワークシート	ALT, JET	1クラス2分割
-----	---	-------------	----------	---------

教科 外国語 科目 英語		5 単位	対象学年 中学 2 年	
【年間学習目標】				
・ 英語に興味を持ち、「読む・書く・聞く・話す」の4技能を中心に、楽しみながら学習に取り組む。 ・ 実際の場面を想定してコミュニケーション活動を行う。 ・ 家庭学習（復習・宿題）の習慣を確立する。 ・ 基本単語・基本的文法事項を習得する。 ・ 英検：現在所持級(レベル)の1つ上を目指す。英検 4 級以上全員取得。				
【評価の観点】				
・ 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解している。外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身につけている。（知識・技能） ・ コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりしている。（思考・判断・表現） ・ 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。（主体的に学習に取り組む態度）				
【使用教材】				
主教材： NEW HORIZON English Course 2【検定教科書】、Smile English 2【教科書準拠問題集】				
副教材：				
Listening	Hyper Listening (Introductory)		オンライン英会話	Weblio Study
Speaking	オリジナルワークシート		グローバルコンピテンスプログラム	
Reading	e ステーション【洋書多読】、オリジナル問題集（冊子）			
Writing	ウィニング英語 2 (Grammar)、ターゲット 1800(Vocabulary)			
期	考査	単元名	学習内容・自己評価	備 考
一学期	中間考査	<Unit 0> 中1の振り返り <Unit 1> 休暇や週末の予定について尋ねたり伝えたりすることができる	<Unit 1> ☐ I am going to visit Singapore next week. ☐ Are you going to visit Singapore next week? - Yes, I am. / No, I am not. ☐ I will make a reservation, ☐ I will show you the Merlion. ☐ People call it the Singapore Flyer.	be going to と will の使い方の違いを理解する。 5つの文構造を理解し使えるようになる。
	期末考査	<Unit 2> 好きな食べ物やその理由について紹介文を書くことができる <Unit 3> 自分が体験したことや学んだことなどについてたずねたり伝えたりすることができる。	<Unit 2> ☐ when I watch TV, I see many interesting dishes. ☐ If you have time, we can go. ☐ I think that curry came to Japan from India. ☐ I do not eat sushi because I do not like raw fish. <Unit 3> ☐ We use computers to do many things. ☐ I am surprised to see this. ☐ We have various things to translate. ☐ It is important to use AI effectively.	接続詞・不定詞の使い方を、学び理解し、練習をする。

期	考查	単元名	学習内容・自己評 44^	備 考
二 学 期	中 間 考 査	<Unit 4> 習慣やマナーについて尋ねたり、伝えたりすることが出来る。 <Unit 5> 身近なもの・ことについて使い方ややり方を説明したり自分の考えを述べたりすることができる	< Unit 4> ☐ You have to speak English. ☐ You do not have to speak perfect English. ☐ You must come home early. ☐ You must not go out alone. ☐ I finished using the bathroom. ☐ Playing games was fun. < Unit 5> ☐ I know how to use these products. ☐ I can show you how to use these products. ☐ I am sure that these ideas help many people.	助動詞を確実に学び、理解する。
	期 末 考 査	<Unit 6> 身近なことについて、特徴を比較しながら説明することができる 長文読解	< Unit 6> ☐ This movie is older than that one. This movie is the oldest of the there ☐ This movie is more interesting than that one. This movie is the most interesting this year. ☐ I like animated movies the best of all.	比較をあらわす表現を学び、理解する
三 学 期	期 末 考 査	<Unit7> 各地の世界遺産を紹介することができる 長文読解 1年間の総復習	<Unit 7> ☐ This place is selected as a World Heritage site. ☐ The mountains are listed as a natural heritage site. Are the mountains listed as a natural heritage site? - Yes, they are./ No, they aren't. ☐ The city is visited by too many tourists. ☐ Mt. Fuji can be seen from different angles.	受動態をあらわす表現の基礎の形を学び、練習する。

【学習上の留意点】

名 称	単位数	主な教材	担当者	クラス
英語	4	New Horizon など	JET（日本人英語教師）	2 クラス 3 分割
GCP	0.5	GCP オリジナルテキスト	Teacher 《GCP》, ALT, JET	HR クラス単位
オンライン英会話	0.5	Weblio オリジナルテキスト	Teacher 《フィリピン人》, ALT, JET	1 クラス 2 分割

*総合学習として

英会話	1	オリジナルワークシート	ALT, JET	1 クラス 2 分割
-----	---	-------------	----------	------------

教科	外国語	科目	英語	6 単位	対象学年	中学 3 年
【年間学習目標】						
・ 4 技能（読む・書く・聞く・話す）を駆使しながら、総合的に英語を学び、言語や文化について興味を持ち、理解を深める。 ・ 教科書内容（単語、文法、本文）を徹底的に理解・習熟し、演習を通じて応用する。 ・ 教科書やその他の読み物（記事、副読本 など）の講読を通じて、語彙力の伸長を図る。 ・ 自立的な家庭学習（計画立案・予習・復習・＋α）のシステムを確立する。 ・ 英検準 2 級以上を取得する。						
【評価の観点】						
・ 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解している。外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身につけている。（知識・技能） ・ コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりしている。（思考・判断・表現） ・ 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。（主体的に学習に取り組む態度）						
【使用教材】						
主教材： NEW HORIZON English Course 3【検定教科書】、Smile English 3【教科書準拠問題集】						
副教材：						
Listening	Hyper Listening (Elementary)		オンライン英会話		Weblio Study	
Speaking	オリジナルワークシート		グローバルコンピテンスプログラム			
Reading	e ステーション【洋書多読】、オリジナル問題集（冊子）					
Writing	ウィニング英語 3 (Grammar)、ターゲット 1800 (Vocabulary)					
期	考查	単元名	学習内容・自己評価			備 考
一学期	中間 考 査	<Unit 0> 2 年の復習 <Unit 1> 障がい者スポーツについての理解を深め、人々を結びつけるスポーツの力について考える	< Unit 1> ☐ I have seen Paralympic sports once. ☐ Asami has never seen Paralympic sports. ☐ Have you ever seen the Paralympic Games? Yes, I have. / No, I have not. ☐ Playing sports makes me happy. ☐ Athletes show us that anything is possible.			「高校での学び」（また、その延長線上にある大学受験）を意識した授業を展開する。 「家庭学習」「予習」はもちろん、疑問・質問を持って授業に臨むことが求められる。 「現在完了」の概念および経験用法を理解し、練習を通して習熟する。
	期 末 考 査	<Unit 2> 海外でも愛される日本の伝統文化の魅力を知り、言語や文化のちがいについて考える <Unit 3> 世界の絶滅のおそれのある動物について知り、自分たちにできることを考える	< Unit 2> ☐ I have just finished my homework. ☐ Have you finished your homework yet? ☐ I have lived in Japan for five years. ☐ How long have you lived in Japan? ☐ I have been reading a book since 10 a.m. < Unit 3> ☐ It is important for us to understand the problem. ☐ I want everyone to know this fact. ☐ Let us give you one example. ☐ People helped toki live safely.			「現在完了」の概念および完了用法・経験用法、完了進行形を理解し、練習を通して習熟する。 to 不定詞および原形不定詞の発展的な表現方法を理解し、練習を通して習熟する。

期	考查	単元名	学習内容・自己評価	備 考
二 学 期	中 間 考 査	<Unit 4> 防災・安全への関心を高め、地域の一員として防災に取り組む意識を持つ <Unit 5> ガンディーの功績を知り、平和や人権の大切さを考える	< Unit 4> ☐ I know where the local shelter is. ☐ Tell me what you have done. ☐ We spoke to a police officer passing by. ☐ They followed instructions given in English. < Unit 5> ☐ This is a picture I found on the internet. ☐ Gandhi is a man who has influenced a lot of people. ☐ This is a picture that[which] I found on the internet.	間接疑問文や分詞について学習し、練習を通して習熟する。 関係代名詞の用法を区別しながら学び、練習を通じて理解を深める。
	期 末 考 査	<Unit 6> 国をこえて助け合う大切さを 知り、自分に何ができるのかを 考える	<Unit 6> ☐ I wish I could go to school. ☐ I wish I had pens and notebooks. ☐ If I were you, I would ask my friends for help. ☐ If I had a school backpack, I would donate it. ☐ Many things that we see every day come from overseas. ☐ This is a movie that(which) makes people happy. ☐ This is a book that(which) she wrote last year.	仮定法の用法を理解し、練習を通して習熟する。
三 学 期	期 末 考 査	中学英語の総復習	①長文読解 ②問題演習 ③高校入試問題 ④その他	これまでに「理解」「習熟」してきた英語を「応用」できるように、また「発展的に」利用可能となるように、さまざまなメディア(英語教材、新聞、雑誌、映画、ラジオ、インターネット等)を活用しながら練習を重ねる。

【学習上の留意点】

名 称	単位数	主な教材	担当者	クラス
英語	4	New Horizon など	JET (日本人英語教師)	2 クラス 3 分割
GCP	0.5	GCP オリジナルテキスト	Teacher 《GCP》, ALT, JET	HR クラス単位
オンライン英会話	0.5	Weblio オリジナルテキスト	Teacher 《フィリピン人》, ALT, JET	1 クラス 2 分割
* 総合学習として				
英会話	1	オリジナルワークシート	ALT, JET	1 クラス 2 分割